

2021年3月期 第2四半期決算説明会



F U S O R E P O R T

2020年11月5日



扶桑化学工業株式会社
東証第一部 (4368)

目次



I. 2021年3月期第2四半期 決算概要

II. 事業の概況

■ ライフサイエンス事業

■ 電子材料および機能性化学品事業

III. 2021年3月期 業績予想

IV. Q&A

代表取締役社長
執行役員 管理本部長

杉田 真一
伊藤 裕之

I. 2021年3月期第2四半期 決算概要

2021年3月期第2四半期 決算概要



(単位：億円)	当期実績	前年同期比			計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	乖離額	乖離率
売上高	203.4	203.3	+0.0	+0.0%	214.0	△10.5	△5.0%
営業利益	46.2	43.6	+2.6	+6.1%	44.0	+2.2	+5.2%
経常利益	45.0	44.0	+1.0	+2.3%	44.5	+0.5	+1.2%
当期純利益	30.8	30.1	+0.7	+2.4%	29.5	+1.3	+4.6%
償却前営業利益	71.1	64.3	+6.8	+10.6%	70.1	+1.0	+1.5%
1株当たり 当期純利益	86.9 円	84.8 円	+2.0 円	+2.4%	83.0 円	+3.8 円	+4.6%

償却前営業利益で過去最高を更新

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



(単位：億円)		当期実績	前年同期比		
			前期実績	増減額	増減率
ライフサイエンス事業	売上高	113.2	123.2	△10.0	△8.1%
	営業利益	17.1	23.5	△6.4	△27.3%
電子材料および 機能性化学品事業	売上高	90.1	80.0	+10.0	+12.6%
	営業利益	35.7	26.1	+9.5	+36.7%
(調整額)		△6.5	△6.0	△0.4	+8.1%
営業利益 (全社)		46.2	43.6	+2.6	+6.1%

2021年3月期 四半期別の業績



(単位：億円)	'21/3期 1Q	前年同期比		'21/3期 2Q	前年同期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	102.0	+2.2	+2.3%	101.3	△2.1	△2.1%
営業利益	23.4	+2.1	+10.2%	22.8	+0.4	+2.1%
経常利益	23.5	+2.4	+11.5%	21.5	△1.4	△6.1%
四半期純利益	15.2	+2.3	+17.8%	15.5	△1.5	△9.2%
償却前営業利益	35.9	+4.6	+14.8%	35.2	+2.2	+6.7%
1株当たり 四半期純利益	42.9 円	+6.4 円		43.9 円	△4.4 円	

2021年3月期 四半期別の業績

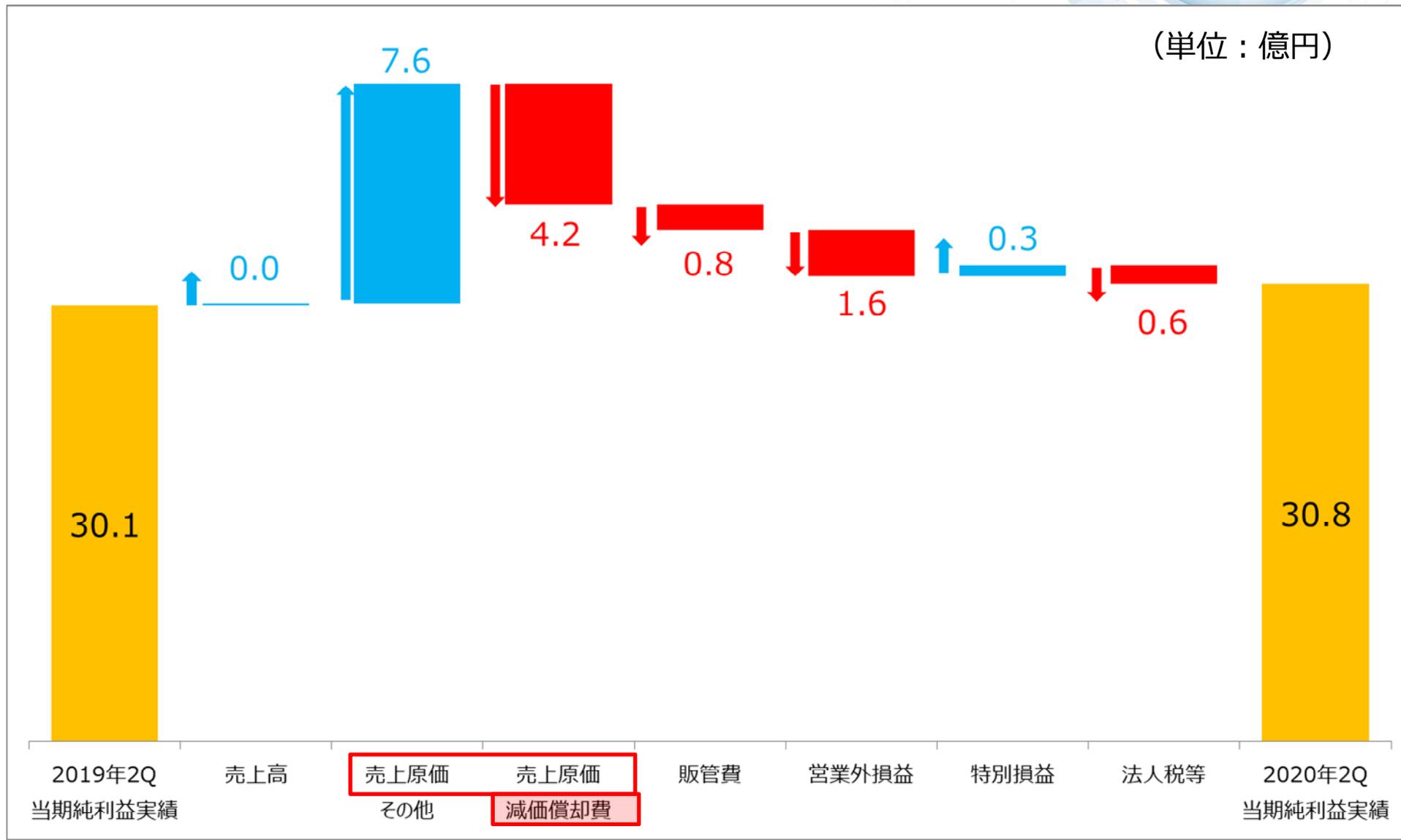


(単位：億円)		1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	上期 (4-9月)	通期計画 (4-3月)
売上高	当期	102.0	101.3	203.4	422.0
	前期	99.7	103.5	203.3	413.1
ライフサイエンス事業	当期	56.7	56.4	113.2	248.0
	前期	61.1	62.1	123.2	241.2
電子材料および 機能性化学品事業	当期	45.2	44.9	90.1	174.0
	前期	38.6	41.4	80.0	171.9
営業利益	当期	23.4	22.8	46.2	81.5
	前期	21.2	22.3	43.6	88.3
ライフサイエンス事業	当期	8.5	8.6	17.1	34.5
	前期	11.4	12.1	23.5	43.2
電子材料および 機能性化学品事業	当期	17.8	17.8	35.7	61.0
	前期	12.8	13.3	26.1	57.4
(調整額)	当期	△2.9	△3.6	△6.5	△14.0

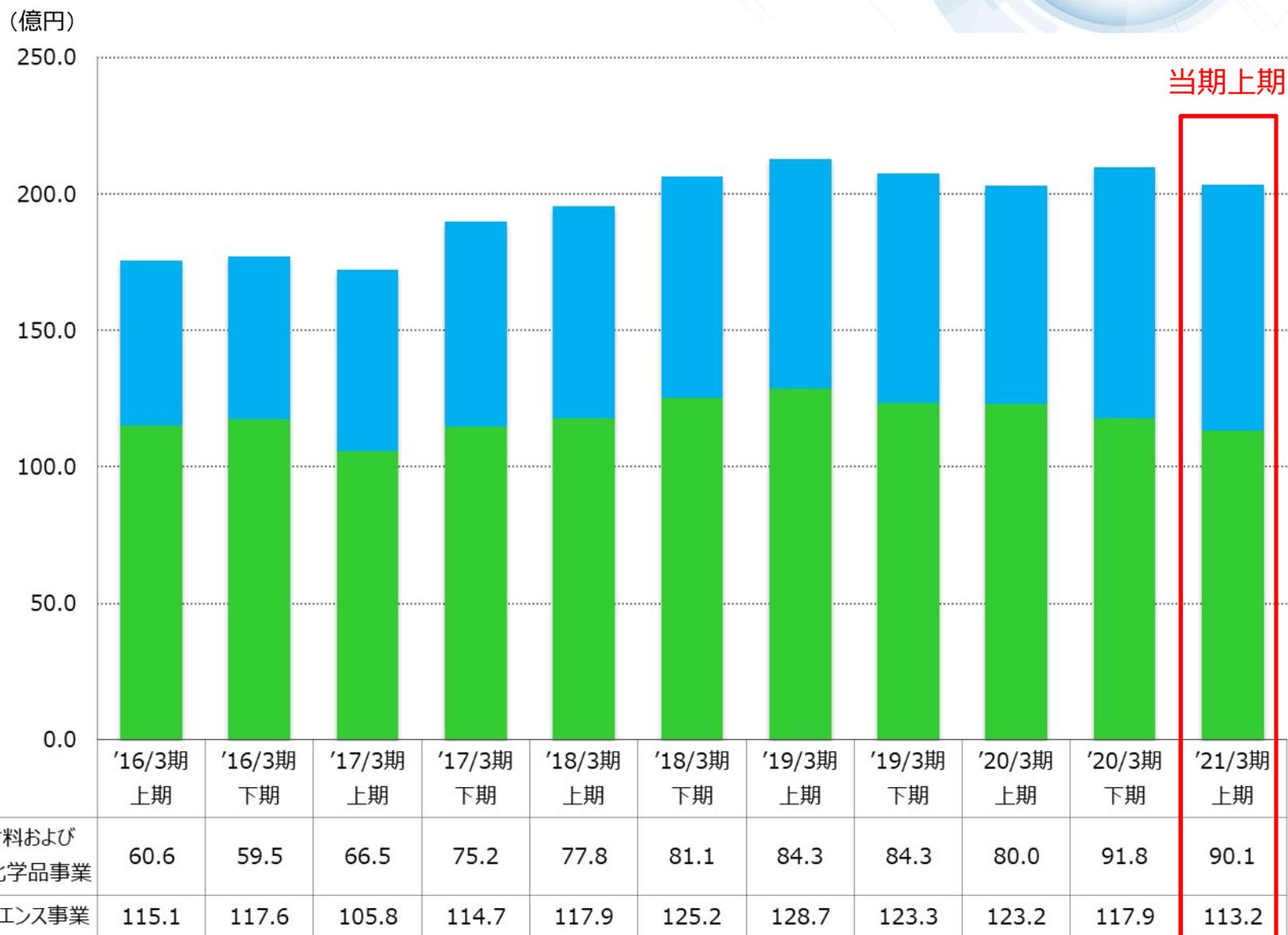
2021年3月期第2四半期 当期純利益増減要因



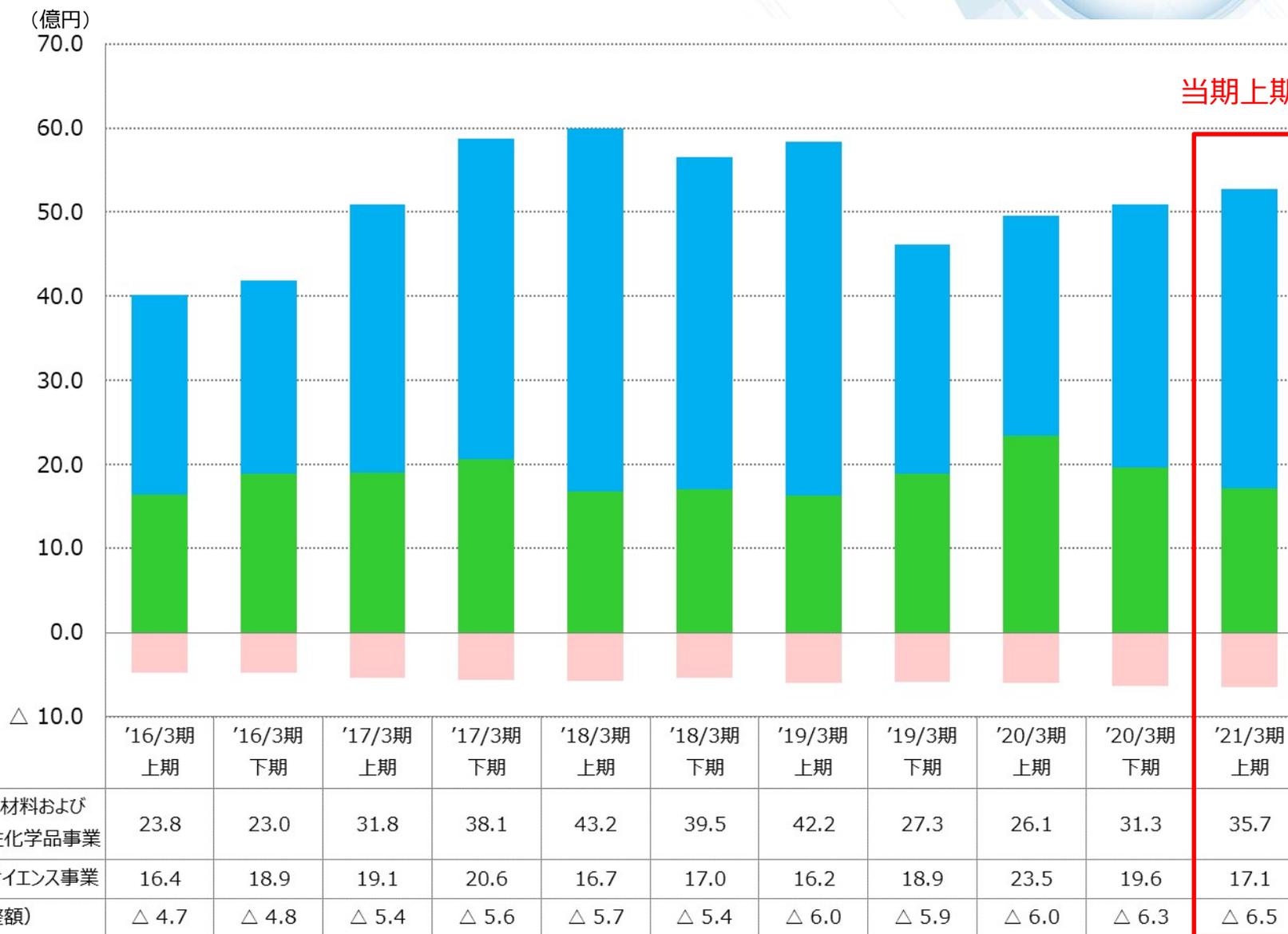
(単位：億円)



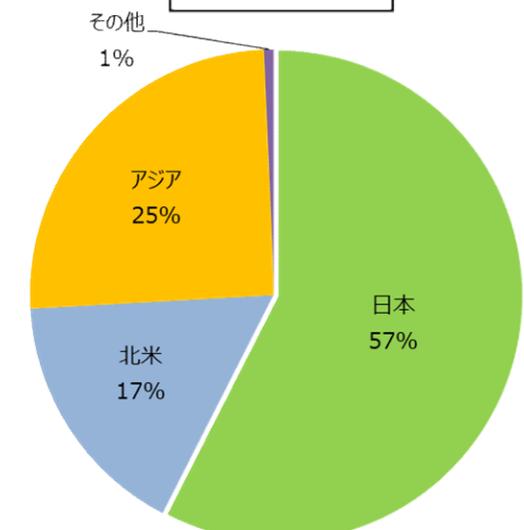
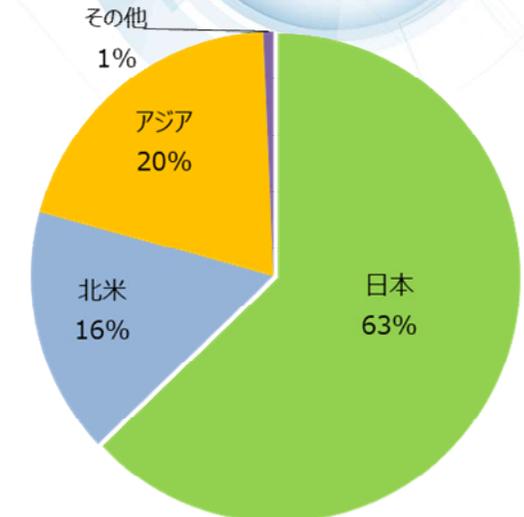
セグメント別売上高推移



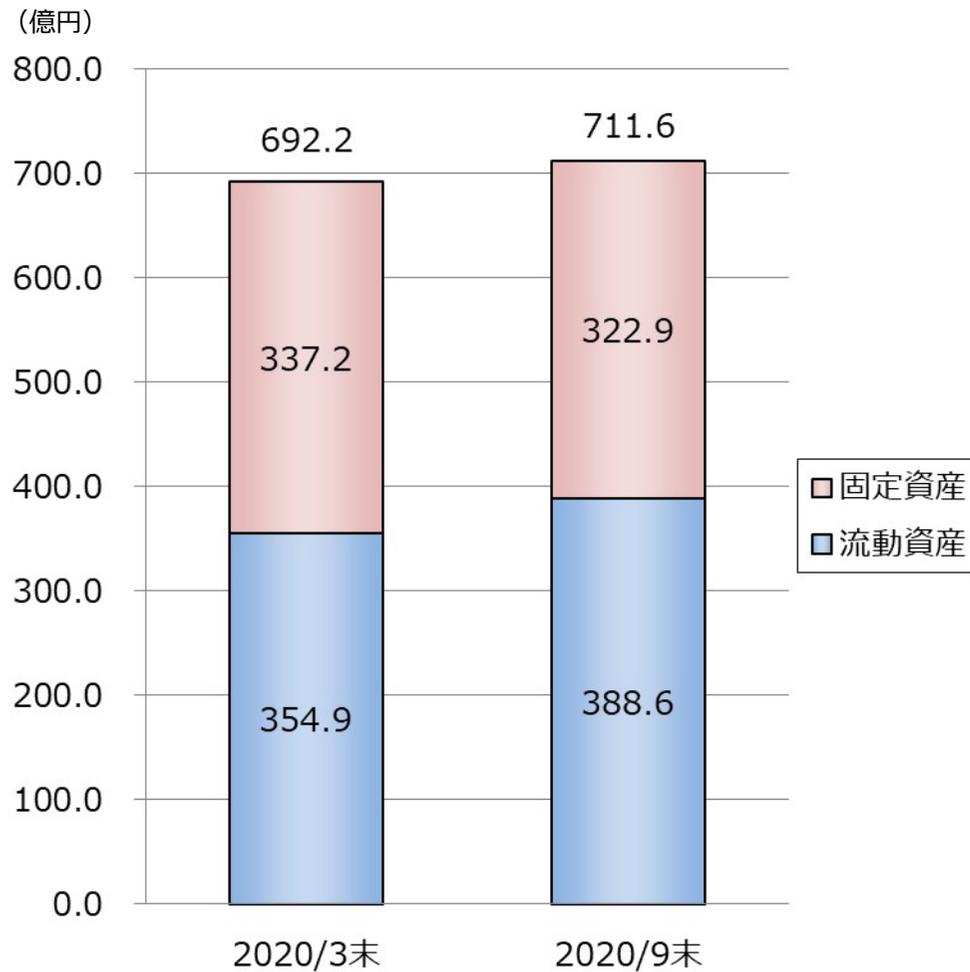
セグメント別営業利益推移



海外売上高推移



資産の状況



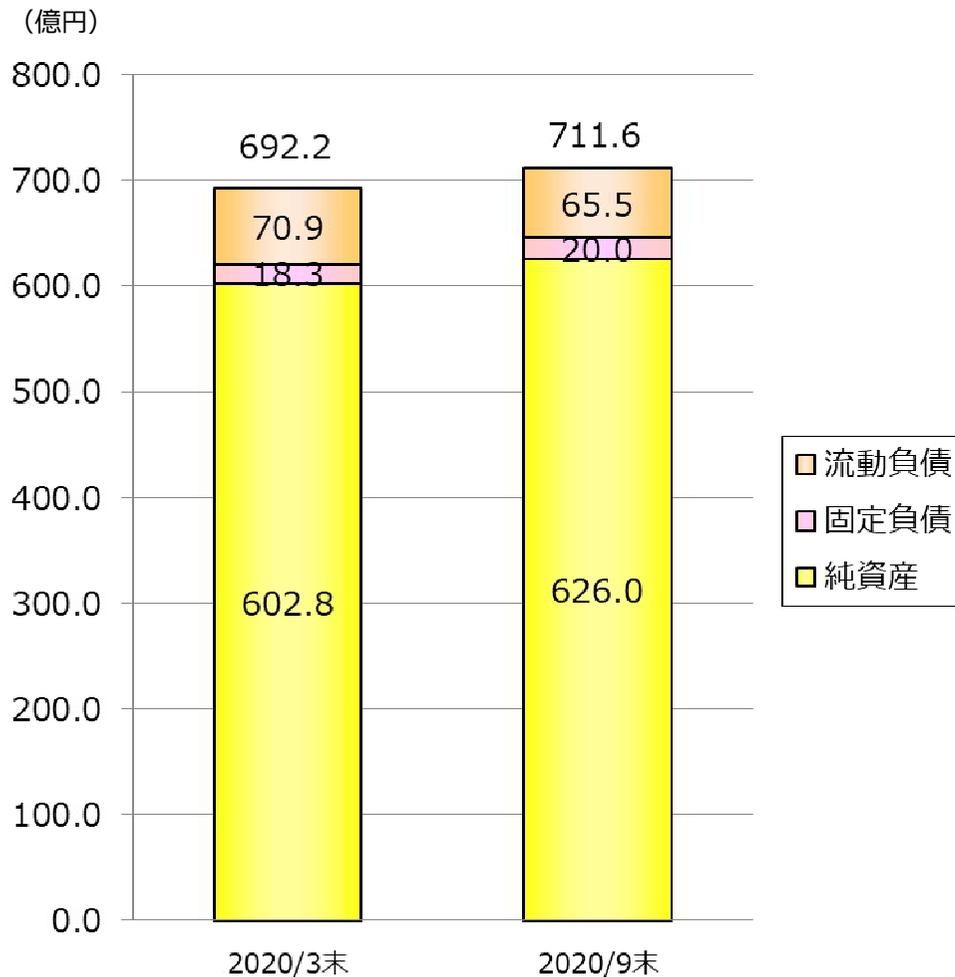
流動資産（前期末比 +33.6億円）

- ・ 現預金の増加

固定資産（前期末比 △14.2億円）

- ・ 減価償却による有形固定資産の減少

負債・純資産の状況



流動負債 (前期末比 Δ 5.4億円)

- ・ 設備未払金の減少

固定負債 (前期末比 +1.6億円)

- ・ 長期設備未払金の増加

純資産 (前期末比 +23.1億円)

- ・ 利益剰余金の増加

キャッシュ・フロー計算書



(単位:億円)

	前期 ('20/3) 上期	当期 ('21/3) 上期
営業活動による キャッシュ・フロー	59.1	60.1
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 17.2	△ 15.5
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 8.2	△ 8.2
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△ 1.5	△ 1.4
現金及び現金同等物 の増加額	32.1	34.9
現金及び現金同等物 の期首残高	102.2	160.8
現金及び現金同等物 の期末残高	134.3	195.7

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 減価償却費
- ・ 税金等調整前当期純利益の計上

投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 設備未払金の支払い

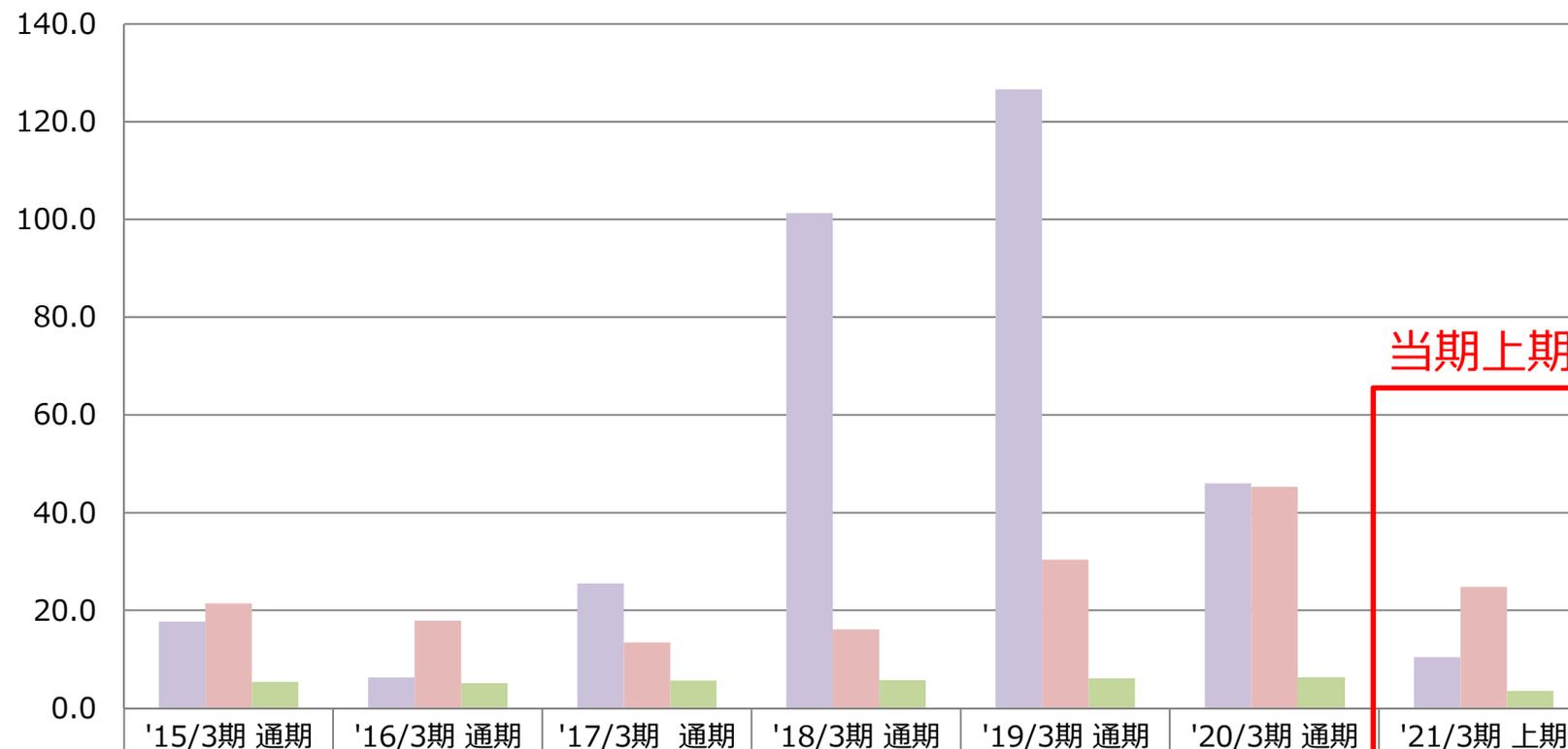
財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 配当金の支払い

設備投資・減価償却費・研究開発費推移



(億円)



当期上期

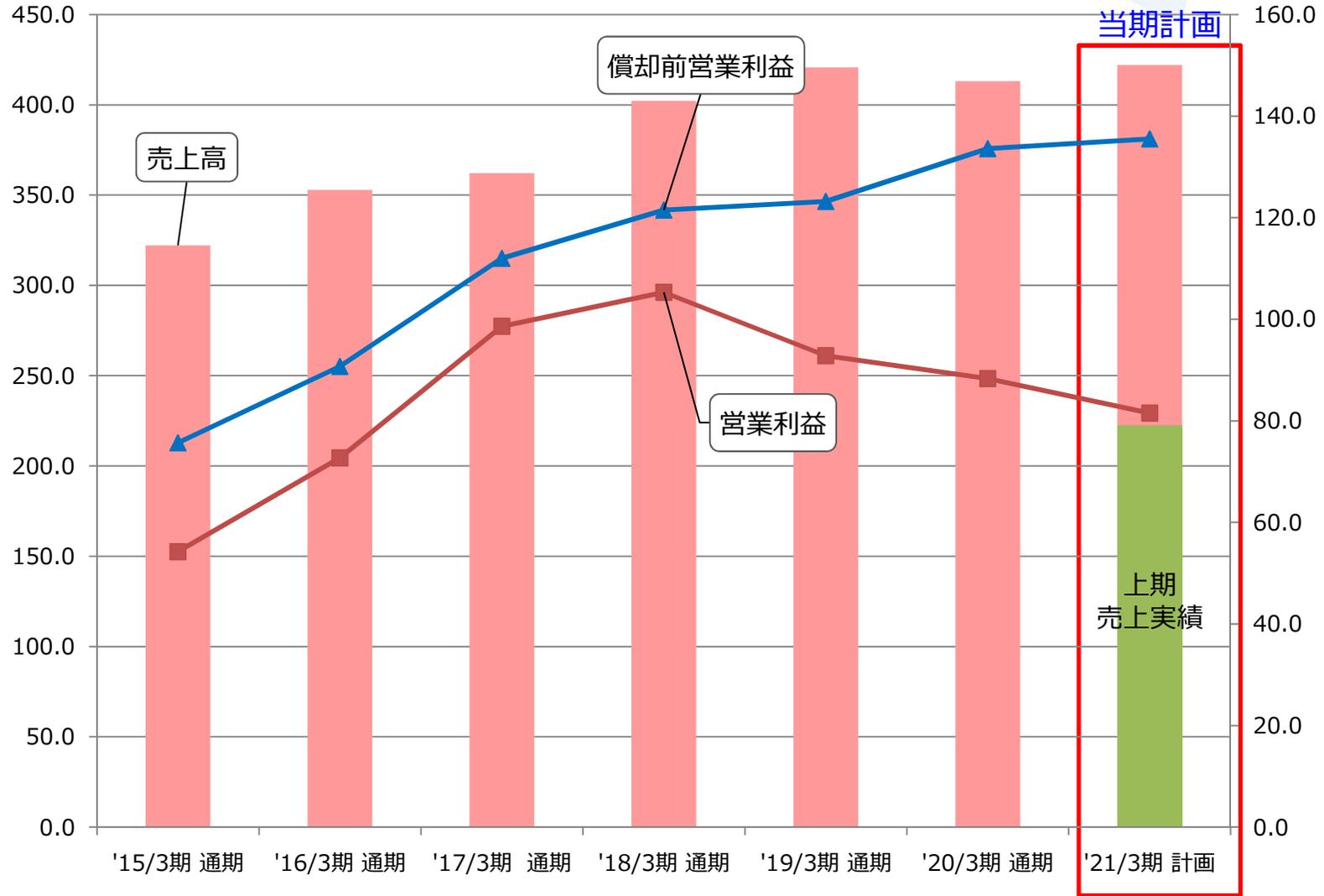
■ 設備投資	'15/3期 通期	'16/3期 通期	'17/3期 通期	'18/3期 通期	'19/3期 通期	'20/3期 通期	'21/3期 上期
■ 減価償却費 (のれん償却含む)	17.7	6.3	25.5	101.3	126.6	46.0	10.4
■ 研究開発費	21.4	17.9	13.4	16.1	30.4	45.3	24.8
	5.4	5.1	5.6	5.7	6.1	6.3	3.5

償却前営業利益

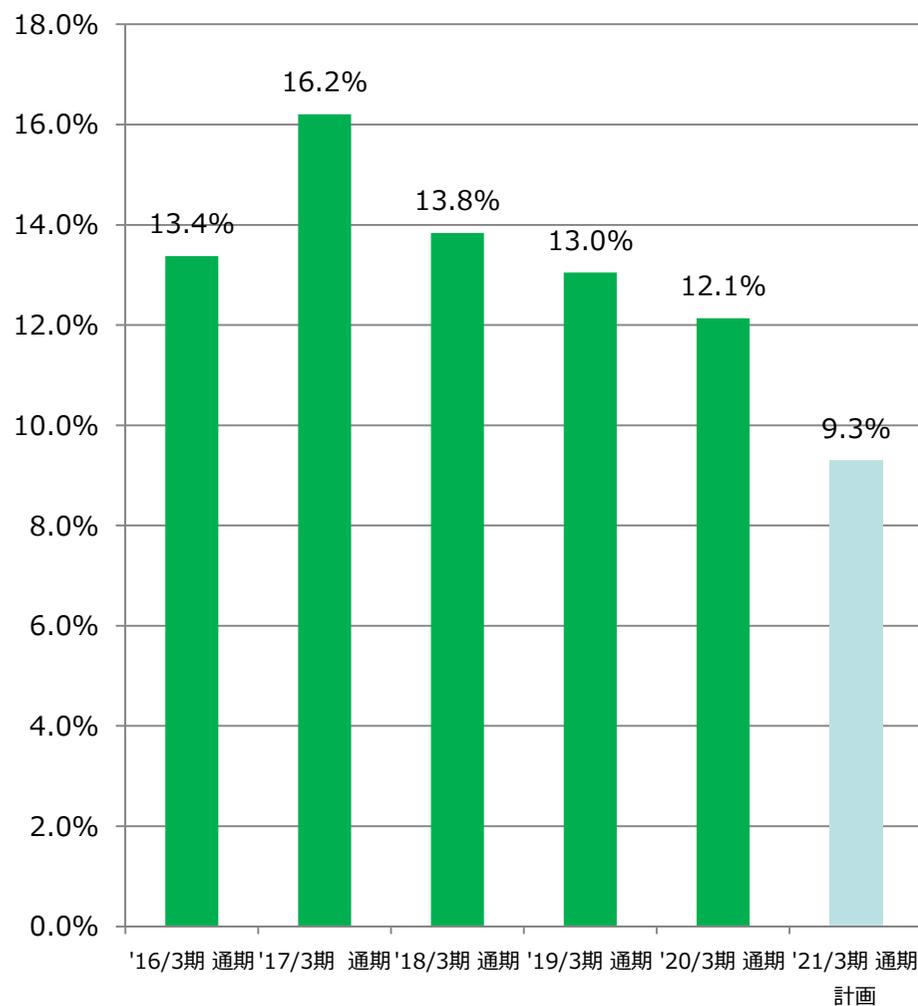


(売上高/億円)

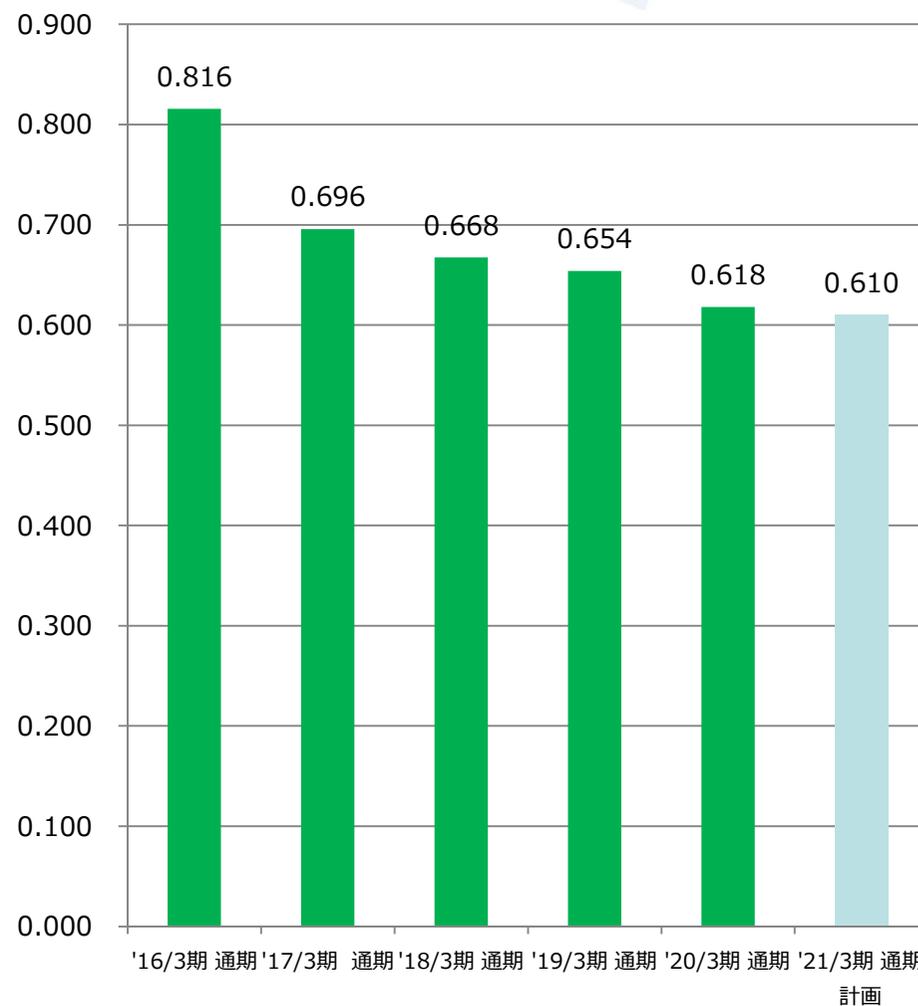
(営業利益/償却前営業利益)
(億円)



自己資本当期利益率 (ROE)



総資産回転率



Ⅱ．事業の概況

ライフサイエンス事業



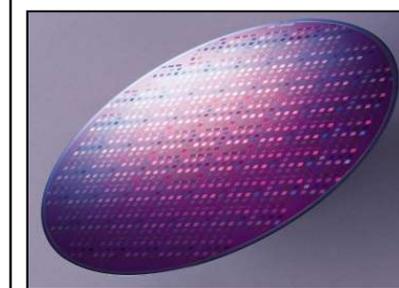
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- ビタミンC類
- イタコン酸
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- その他果実酸
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



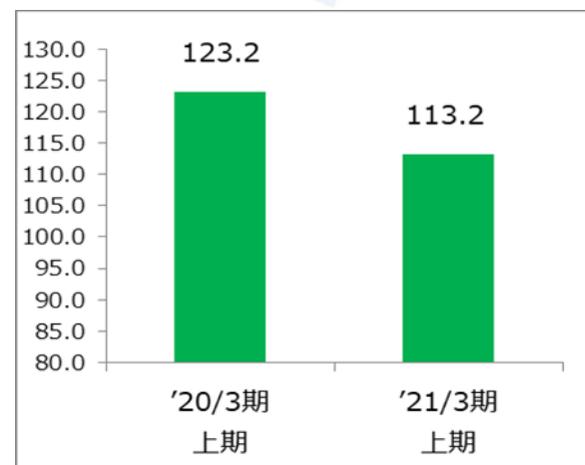
セグメント別売上高・営業利益



ライフサイエンス事業

(単位:億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	113.2	123.2	△10.0	△8.1%
営業利益	17.1	23.5	△6.4	△27.3%

売上高 (億円)



売上高

<増加要因>

- ・リンゴ酸の輸出の増加
- ・ステイホーム関連用途での販売増加

<減少要因>

- ・リンゴ酸（国内）、クエン酸類の販売の低調
- ・COVID-19の影響による販売の減少
- ・フマル酸、無水マレイン酸の販売単価の低下

営業利益

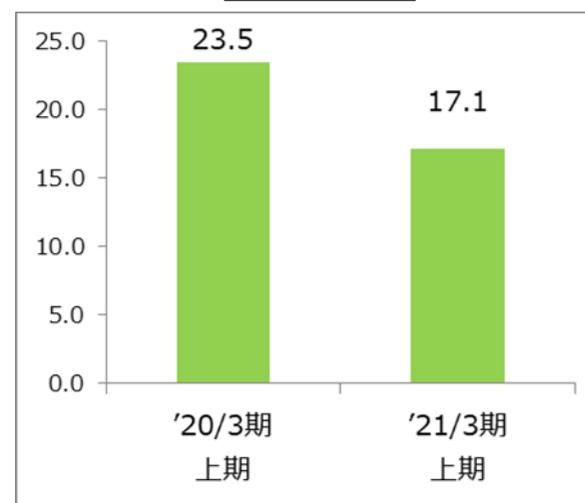
<増加要因>

- ・原料・仕入れ価格の低下

<減少要因>

- ・減価償却費の増加

営業利益 (億円)



売上高

- ・ リンゴ酸の輸出の増加
 - ▶北米、東南アジア、欧州で新規獲得（ビタミン製剤用途他）
- ・ ステイホーム関連用途での増加
 - ▶家庭用洗剤、入浴剤向けでの販売の増加
- ・ COVID-19の影響による販売の減少
 - ▶飲料・工業用途（国内外）、GNA混和剤（北米）での販売の減少
- ・ 無水マレイン酸、フマル酸の販売単価の低下
 - ▶原料ベンゼン価格の低下

【2019年】640\$/MT 【2020年】398 \$/MT 《ACP 4-9月平均》

減収
減益

営業利益

- ・ 原料・仕入れ価格の低下
 - ▶為替レートの影響、ベンゼン価格・その他購入製品価格の低下
- ・ 減価償却の増加
 - ▶鹿島リンゴ酸設備の償却開始

I. 果実酸コンビナート構想の実現

II. 生産体制の再構築及び設備増強

III. 次世代新製品の早期戦列化

IV. グローバル展開

I. 果実酸コンビナート構想の実現（リンゴ酸【新工場】）

- ・ 商業生産開始
キャンペーン生産実施（計3回）
各工程の最適化を行い、工程の安定化を達成
- ・ 国際認証の取得
米国FDA登録、HALAL認証
FSSC22000プロジェクト発足
- ・ 海外新規顧客への販売開始
（タイ、ベトナム、ミャンマー、ドイツ、スペイン、
北米、アルゼンチン等）
- ・ 国内外切替作業開始

I. 果実酸コンビナート構想の実現



◆ 鹿島事業所 ◆

2014年三井化学株式会社から有機酸(無水マレイン酸、フマル酸)設備を譲受
2018年敷地も含め完全取得

リンゴ酸【新工場】

- ・ 国際認証の取得
米国FDA(8月)、HALAL(9月)、KOSHAR(11月見込)、**FSSC22000(21年4月予定)**
- ・ 新工場フル稼働の早期実現
販売状況に応じた稼働制御可能なことを確認後、
7月より商業生産開始
- ・ 国内外顧客の品質評価、認定の促進



新工場品への切替

海外顧客の新規獲得

既存顧客のシェア拡大

【国内】切替作業

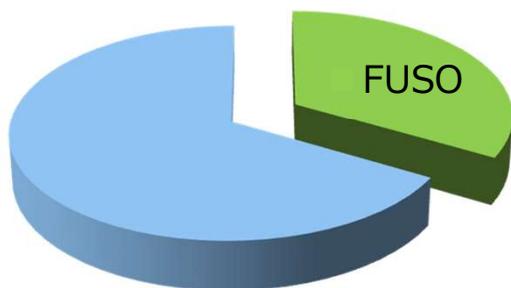
【海外】切替作業（一部認証取得待ち）、東南アジア・欧米で新規顧客獲得

I. 果実酸コンビナート構想の実現



リンゴ酸

リンゴ酸市場（アジア）



（当社推定：35,000トン）

● 中期販売目標 ●

(MT/Y)
10,600 ('19年度実績)
6,000 ('20年度上期)
14,000 ('20-'21年度)



18,500 (MT/Y)

- 世界市場は年率3～5%以上の成長
- 全世界需要拡大の半分はアジア地域
- 各国代理店経由・未販売国での本格化

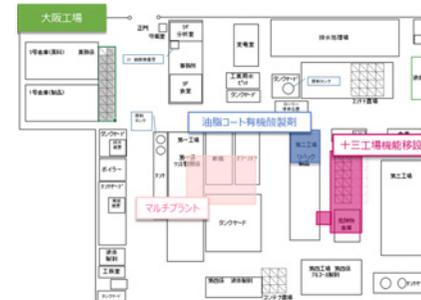
- ⇒ 近い将来10万トン/年
- ⇒ アジア市場でのシェア拡大
- ⇒ 新規顧客の取り込み

Ⅱ. 生産体制の再構築及び設備増強

- ・ 計画及びスケジュール作成

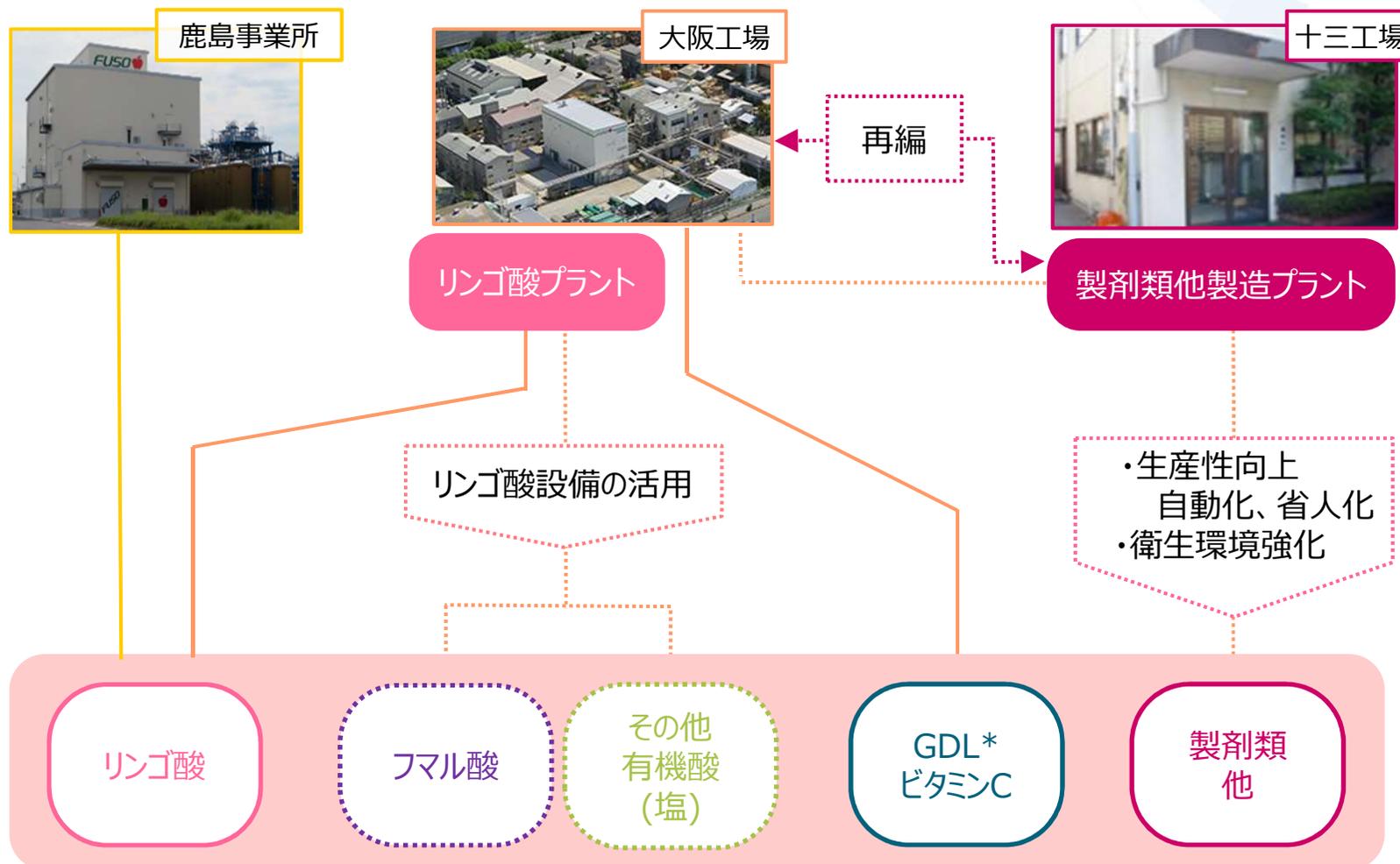
【新規設備導入における基本思想】

- ◆ イニシャルコスト低減のため、既設/遊休設備を最大限に活用
- ◆ **工場全体の合理化、効率化**
- ◆ 生産要員の合理化



- ・ COVID-19の影響により、基本設計は下期に遅延

Ⅱ. 生産体制の再構築及び設備増強



◆ 果実酸類の総生産・販売数量アップ ◆

《実戦》 現在製造品目
《点線》 将来構想品目

* グルコノデルタラクトン

Ⅲ. 次世代新製品の早期戦列化

- ・ 油脂コート有機酸

COVID-19の影響により、基本設計確定は下期

- ・ バイオスティミュラント (ストレスフリー製剤)

評価系の再現性確認 → 未達成



Ⅲ. 次世代新製品の早期戦列化



● 油脂コート有機酸

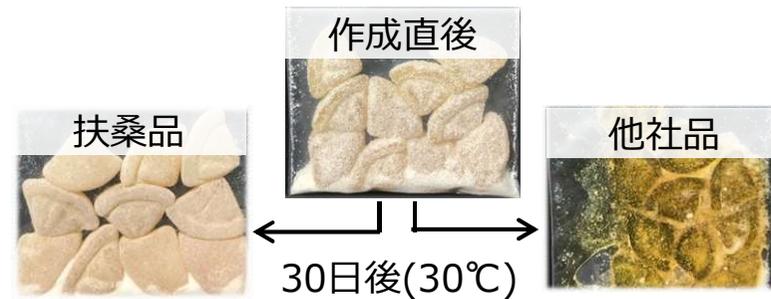
設備化検討・基本設計確定
(年内)

COVID-19の影響



【21年度】生産体制確立
【22年度】販売開始

扶桑コート品と他社品との高果汁グミでの性能比較



● バイオスティミュラント (ストレスフリー製剤)

耐暑性試験

芝・葉菜類・ホウレンソウ

再現性確認実施
未達成

計画の見直しを行い
来年度に改めて実施

IV. グローバル展開

- 各社（青島扶桑、PMP、扶桑タイランド）ともにリンゴ酸の販売拡大
- 中国、タイにおける食添製剤ビジネス拡大
日系に加え、ローカルの食品会社へのビジネス拡大
テストキッチン完成・使用開始（中国）



- COVID-19の影響により、海外各社とも販売は計画未達も、回復傾向

IV. グローバル展開



青島扶桑精製加工有限公司

- ◆ テストキッチン完成（10月）→ 食添製剤ビジネス拡大
- ◆ COVID-19の影響により中国国内販売は低調も、5月を底に回復しほぼ前年並
- ◆ リンゴ酸は工業用途での販売拡大



FUSO(THAILAND) CO., LTD.

- ◆ 日系およびタイローカルの手食品会社において新規採用
- ◆ 第一四半期は好調だったものの、第二四半期はCOVID-19の影響を受けて低調ただし、9月は回復傾向
- ◆ リンゴ酸は新規獲得、およびタイ周辺国への輸出拡大



PMP Fermentation Products, Inc.

- ◆ 北米唯一のグルコン酸メーカーとして、製造能力を段階的アップ中
- ◆ COVID-19の影響のあった混和剤用途は平年並みに回復、洗剤用途も回復傾向食品向けは堅調
- ◆ リンゴ酸は販売拡大中



電子材料および 機能性化学品事業

事業内容



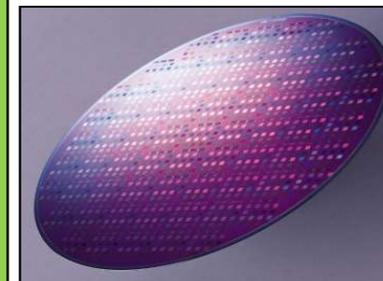
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- その他果実酸



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



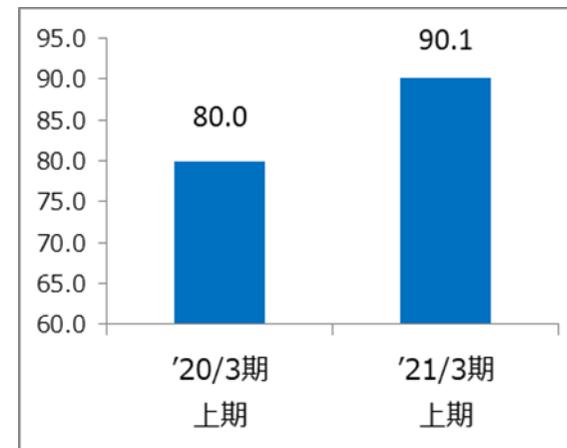
セグメント別売上高・営業利益



電子材料および機能性化学品事業

(単位:億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	90.1	80.0	+10.0	+12.6%
営業利益	35.7	26.1	+9.5	+36.7%

売上高 (億円)



売上高

<増加要因>

- 最先端CMP用途での採用増
- リモートワークに伴う需要増
- 米中半導体対立による在庫水準の引き上げ

<減少要因>

- ナノパウダー販売減

営業利益

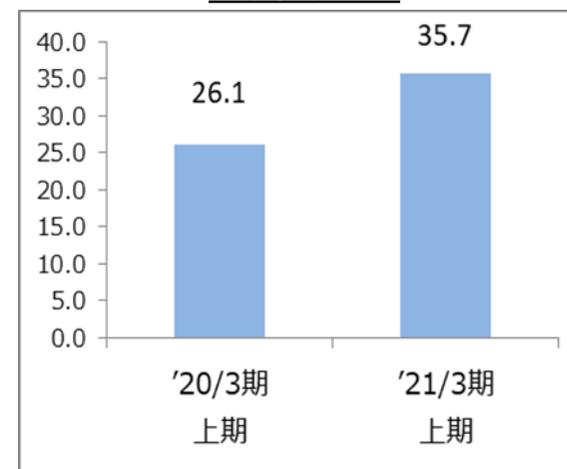
<増加要因>

- 製造数量増加によるコスト減少
- 経費の縮減
- 減価償却費減

<減少要因>

- 機能性化学品事業での減価償却費増加
- コロナ禍での販売数量減によるコスト増加

営業利益 (億円)



売上高

- ・ 最先端CMP用途での採用増
 - ▶ ロジックの微細化に伴う増加
 - ▶ メモリーの高層化に伴う増加
- ・ リモートワークに伴う需要増
 - ▶ パソコンなど電子機器需要増
 - ▶ 通信量増加に伴うデータセンター増設
- ・ 米中半導体対立
 - ▶ 規制強化前からの在庫水準の引き上げ
- ・ リモートワークに伴うオフィスサプライ需要減
 - ▶ オフィスでの印刷量減少に伴うトナー需要減少

営業利益

- ・ 製造経費のコストダウン
 - ▶ 生産数量増加によるスケールメリットの向上
- ・ 販売経費のコストダウン
 - ▶ 出張・訪問自粛に伴う経費減
- ・ 減価償却費減
 - ▶ ピークアウト後、減少に転換

増収
増益

I. 電子材料（超高純度コロイダルシリカ）：
重点顧客との取組み強化、新規砥粒開発推進

II. 生産・品質保証体制の整備：
コスト削減、生産効率化、顧客満足度アップ、分析精度向上

III. 機能性材料（新規用途向け）：
コア技術をベースとした新規市場開拓

I. 電子材料（超高純度コロイダルシリカ）： 重点顧客との取組み強化、新規砥粒開発推進

- ・ コロナ禍ではあるが、重点顧客各社とリモート会議による新規砥粒開発推進 開発は計画通りに進捗
- ・ 新規砥粒を増設した製造ラインから供給開始
- ・ 増設した製造ラインの顧客認定を経て、下期から供給開始

<2020年上期>

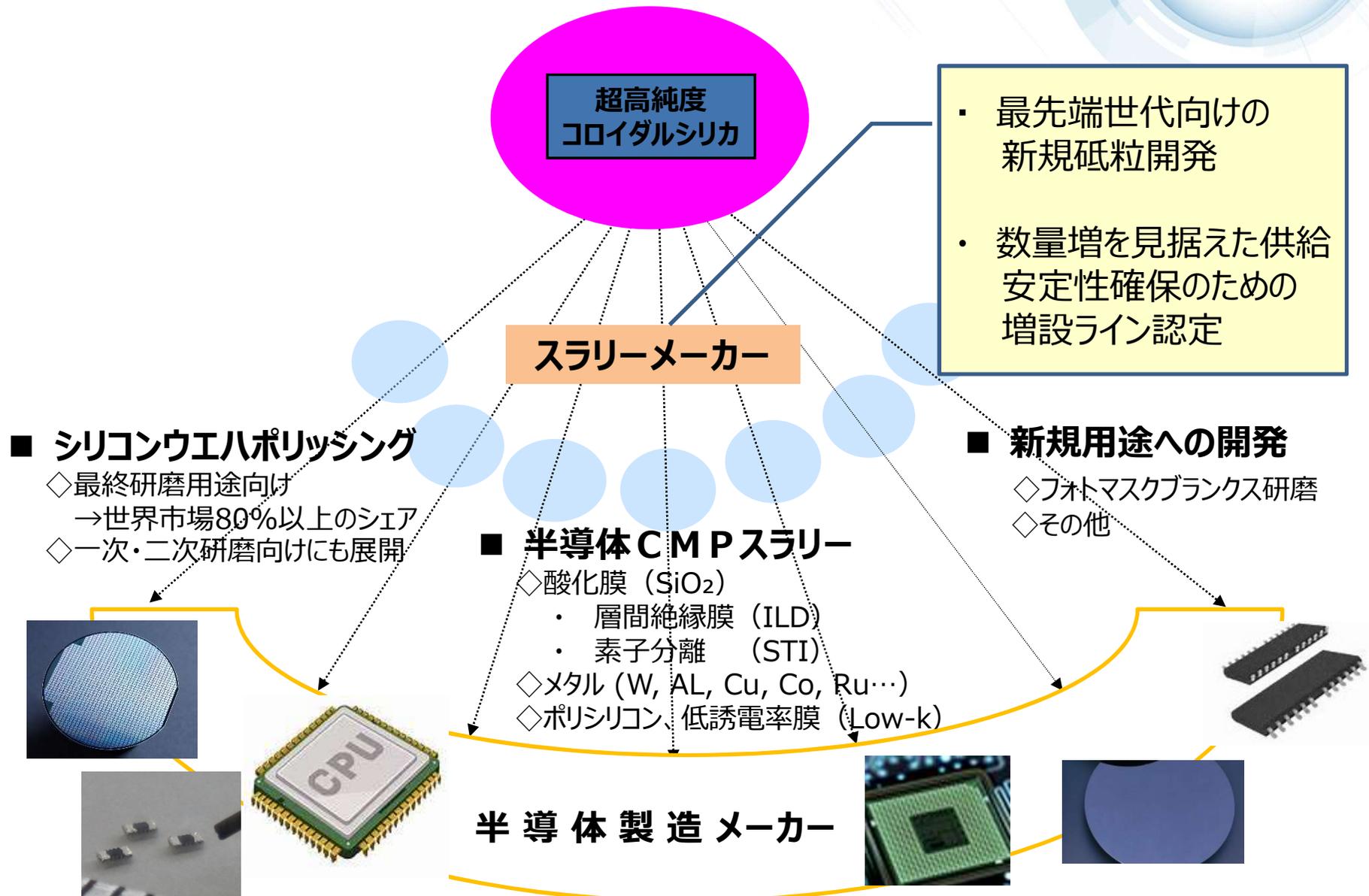
✓ 半導体需要の顕在化

- テレワーク・働き方改革等に伴う、半導体需要の増加
- AI・5Gの需要に対する半導体の配線微細化
- ・ シリコンウエハ：2020年前半(1~6月)、対前年では+0.6% (参照：Semi)
- ・ Apple、AMDなど多くのCPU生産に於いて最先端7nmノード技術が採用
- ・ 半導体ファウンドリーであるTSMCは、対前年比で売上で+31%の成長(参照：TSMC Web)
- ・ 当社製品は、ロジックでの使用割合が多いと推測され、数量ベースで対前年同期+20%

<2020年下期～見通し>

✓ 半導体市場の拡大傾向は継続

- AI・5G需要の創出もあり、半導体需要は底堅い
- 高性能ロジックを必要とする用途拡大 サーバー需要増加による
高性能メモリ需要の増大
- 最先端半導体の生産での、配線微細化・高平坦化が進み需要拡大
CMPや、その材料に対する顧客品質要求も益々高度化



半導体業界の動向

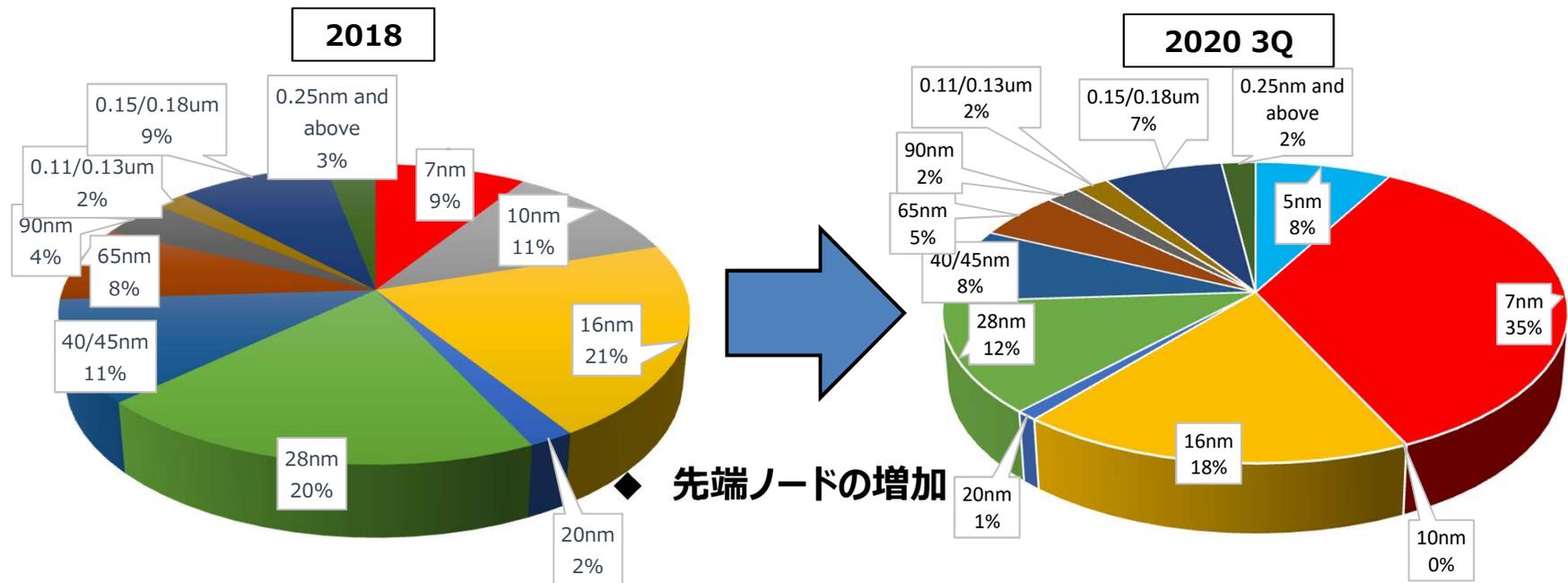


	実績		予測			
	2018	2019	2020	2021	2022	2023
出荷面積 (MSI)	12,541	11,677	11,957	12,554	13,220	13,761
年成長率 (%)	8.0	-6.9	2.4	5.0	5.3	4.1

◆ ウェハ出荷数量予測 ◆

2020年以降、強い需要に支えられ、増加傾向が加速

【出典 Semi】

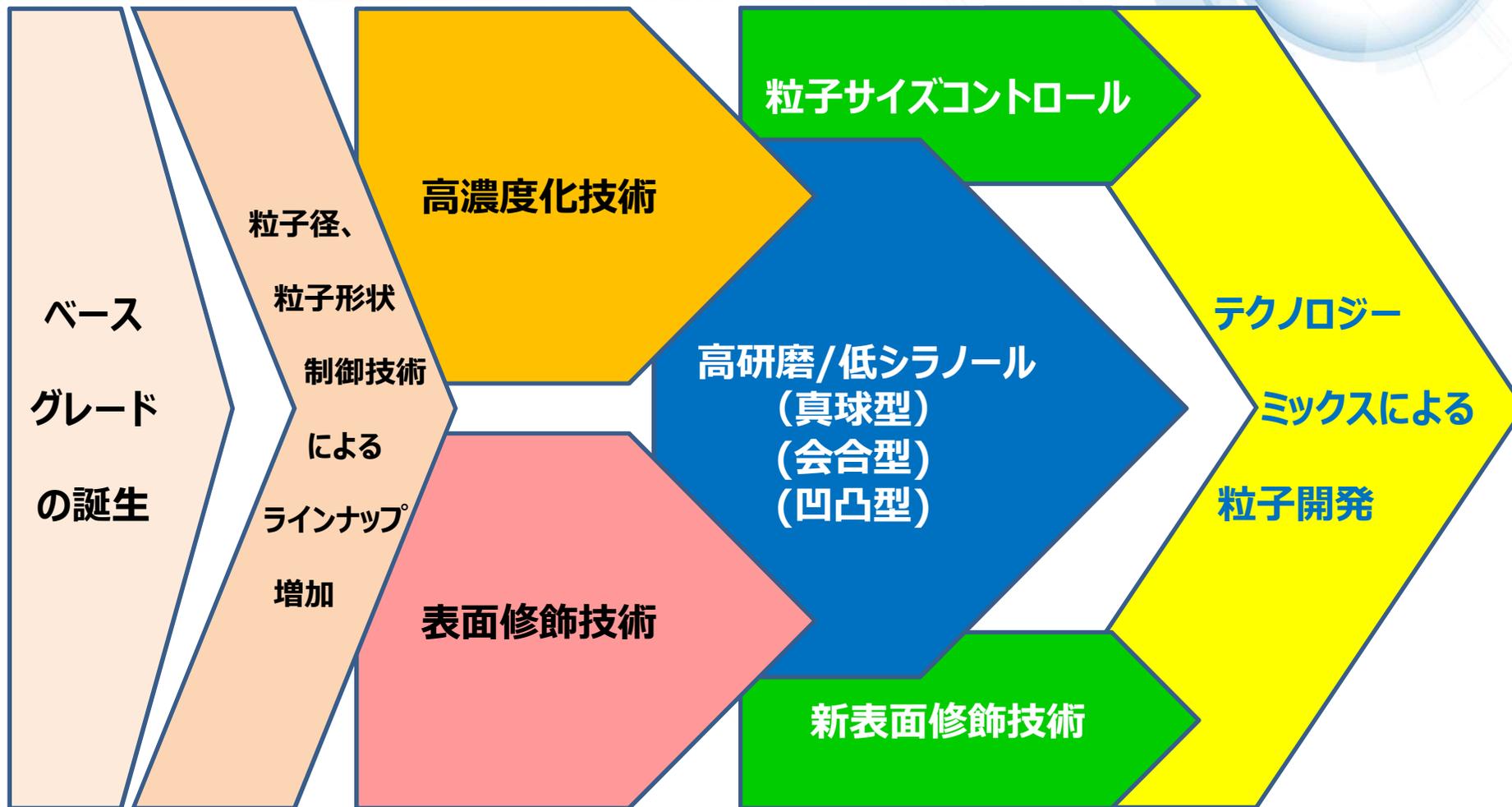


【出典 TSMC】

Ⅱ. 生産・品質保証体制の整備： コスト削減、生産効率化、顧客満足度アップ、分析精度向上

- ・ 最先端世代向けの新規砥粒を増設した最先端設備からの供給開始
- ・ 分析精度向上のための新たな分析機器の導入及び顧客認定の実施
- ・ 生産切り替えを減らし生産効率化を推進

半導体研磨用途コロイダルシリカの進化



超高純度
化を達成し
業界スタン
ダードへ

適用アプリ
ケーションを
増やし、
シェア拡大

高濃度で、より使い易く

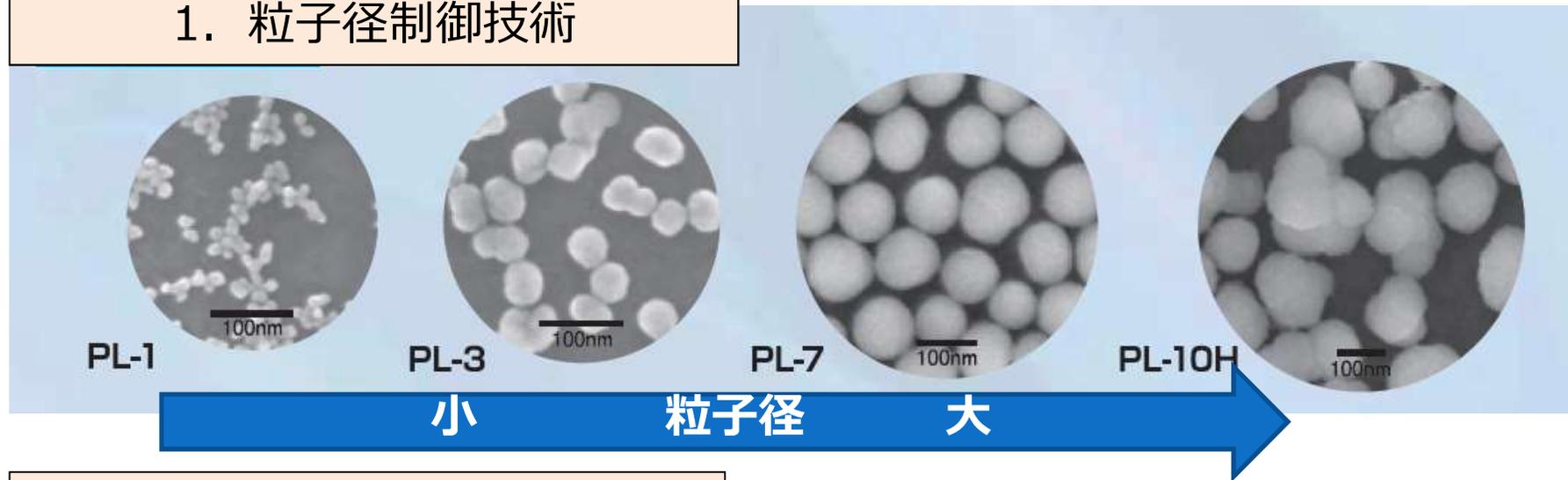
あらゆるpH領域で
性能を発揮可能に

高研磨レート、高選択性、
低ディフェクトなど新たな
特性を獲得

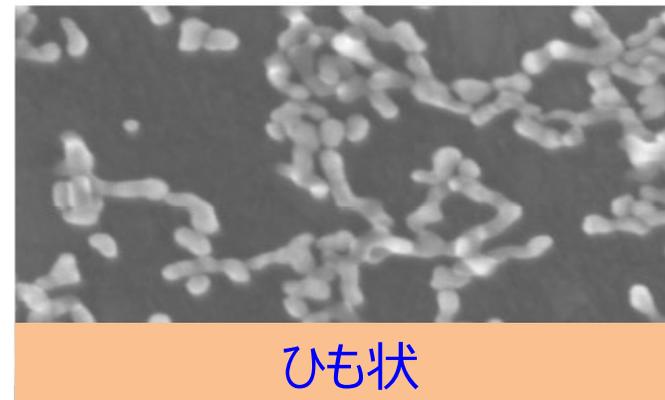
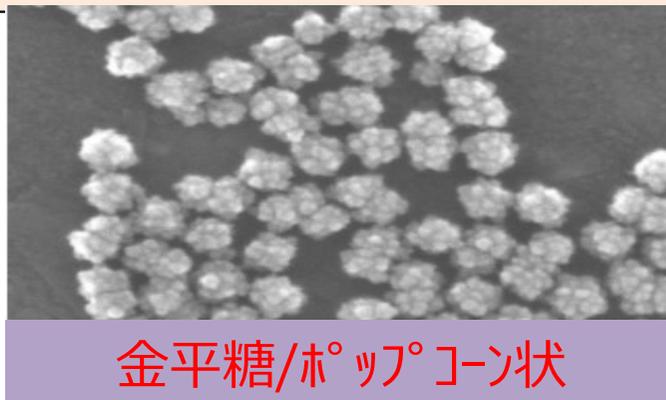
トップメーカーと
して顧客のあらゆる
ニーズに対応

コロイダルシリカの粒子制御技術

1. 粒子径制御技術



2. 粒子形状制御技術



製造技術

最先端設備導入

- シングルナノ世代に対応した高精度のプロセス制御
- 高品質、高効率
- 最新鋭製造所

研究開発

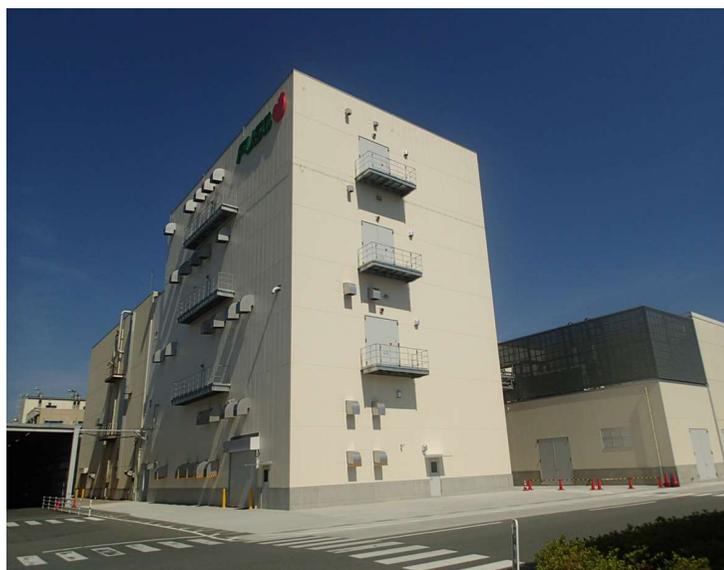
量産化とマッチした開発

- スケールアップ技術
- デザインレビュー
- 高精度ラボ装置
- プロセス技術開発

品質保証

最新鋭の評価機器

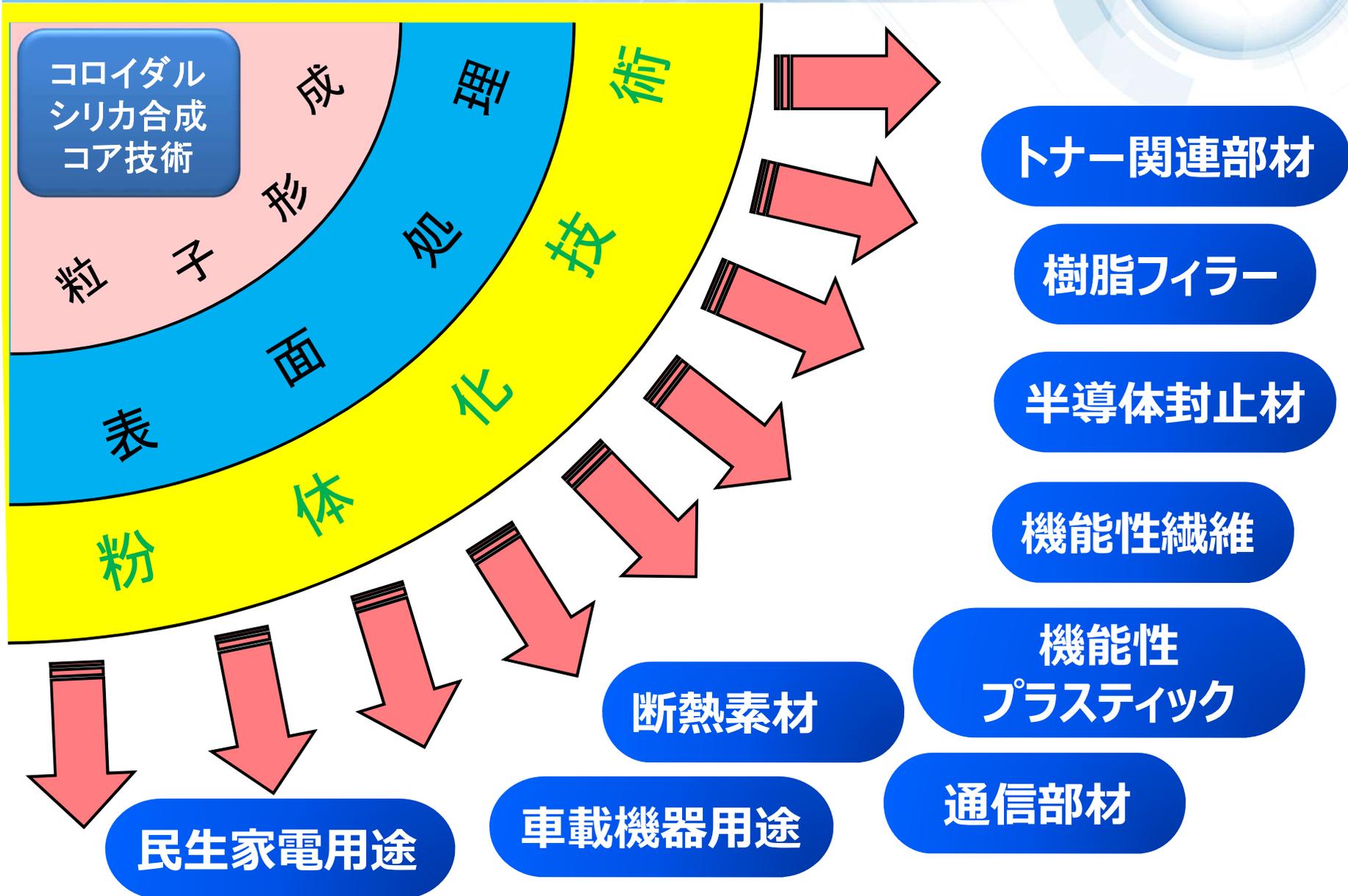
- 小粒子粒度分布、表面状態の測定
- 顧客評価との相関性、精度向上



Ⅲ. 機能材料（新規用途向け）： コア技術をベースとした新規市場開拓

- ・ トナー関連部材の顧客開拓は、テレワークにより顧客の開発スピードに遅れが出ている。
- ・ ナノシリカパウダー及び中空ナノシリカの市場調査を実施中。

コア技術をベースとした新規展開



Ⅲ. 2021年3月期 業績予想

償却額見込

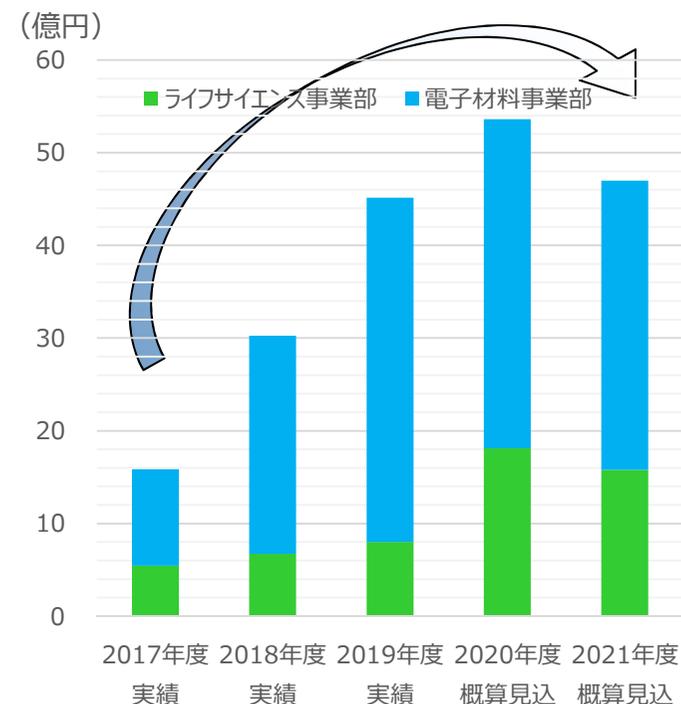


2020年度をピークに減少

- ◆ 電子材料事業部門 : 2019年度が最大。
- ◆ ライフサイエンス事業部門 : 2019年度第4Qより増加。2020年度が最大。

(単位:百万円)

セグメント	2019年度 上期 実績	2020年度 上期 実績	2019年度 実績	2020年度 概算見込	2021年度 概算見込
ライフサイエンス事業部	292	824	802	1,810	1,580
電子材料事業部	1,767	1,651	3,710	3,550	3,120
共通	8	12	19	40	150
連結合計	2,067	2,488	4,532	5,400	4,850



* 工事完了時期、追加費用、計画変更、新規投資等に伴い、概算金額変動の可能性有り。

業績予想



- ◆ 事業基盤構築・事業拡大に向けた、大型設備投資が完了し、稼働
- ◆ 償却前利益額（EBITDA）の最高益更新を継続

現状前提

- ・ 為替レート ¥ 105円前後で推移
- ・ 米中半導体規制の影響
- ・ コロナウイルスの影響は最小限
- ・ 石油価格は安値圏で推移

計画前提

- ・ 年間為替レート ¥ 108円
- ・ 半導体市況の不確定要因
- ・ コロナウイルスの影響
- ・ 石油価格の急落

	売上高		営業利益		当期純利益		償却前営業利益	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
2021.3 計画	42,200	+2.2%	8,150	△7.7%	5,600	△20.2%	13,550	+1.4%
第2四半期 (実績)	20,340	+0.0%	4,629	+6.1%	3,086	+2.4%	7,117	+10.6%
2020.3 実績	41,310	△1.8%	8,830	△4.9%	7,014	+1.9%	13,362	+8.4%
第2四半期 (実績)	20,333	△4.6%	4,364	△16.8%	3,013	△22.4%	6,432	+2.4%

(% : 対前年度同期増減率)

2021年3月期 通期業績予想



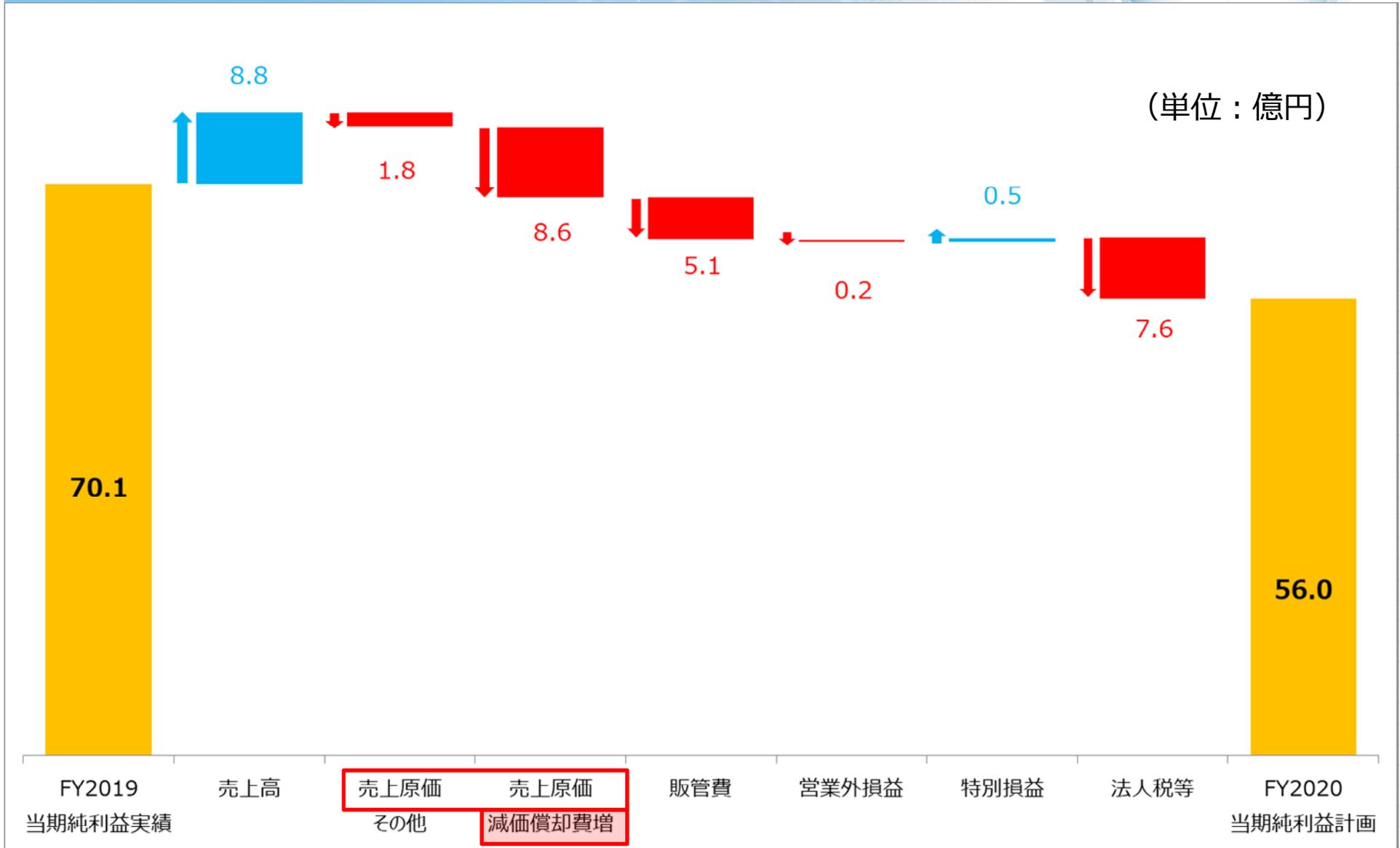
(単位：億円)

	'20/3期 上期 (実績)	'20/3期 通期 (実績)	'21/3期 上期 (実績)	'21/3期 通期 (計画)
売上高	203.3	413.1	203.4	422.0
ライフサイエンス事業	123.2	241.2	113.2	248.0
電子材料および 機能性化学品事業	80.0	171.9	90.1	174.0
営業利益	43.6	88.3	46.2	81.5
ライフサイエンス事業	23.5	43.2	17.1	34.5
電子材料および 機能性化学品事業	26.1	57.4	35.7	61.0
(調整額)	△6.0	△12.4	△6.5	△14.0
経常利益	44.0	89.5	45.0	82.5
当期純利益	30.1	70.1	30.8	56.0
償却前営業利益	64.3	133.6	71.1	135.5
1株当たり当期純利益	84.8円	197.5円	86.9円	157.7円

2021年3月期計画-当期純利益増減要因



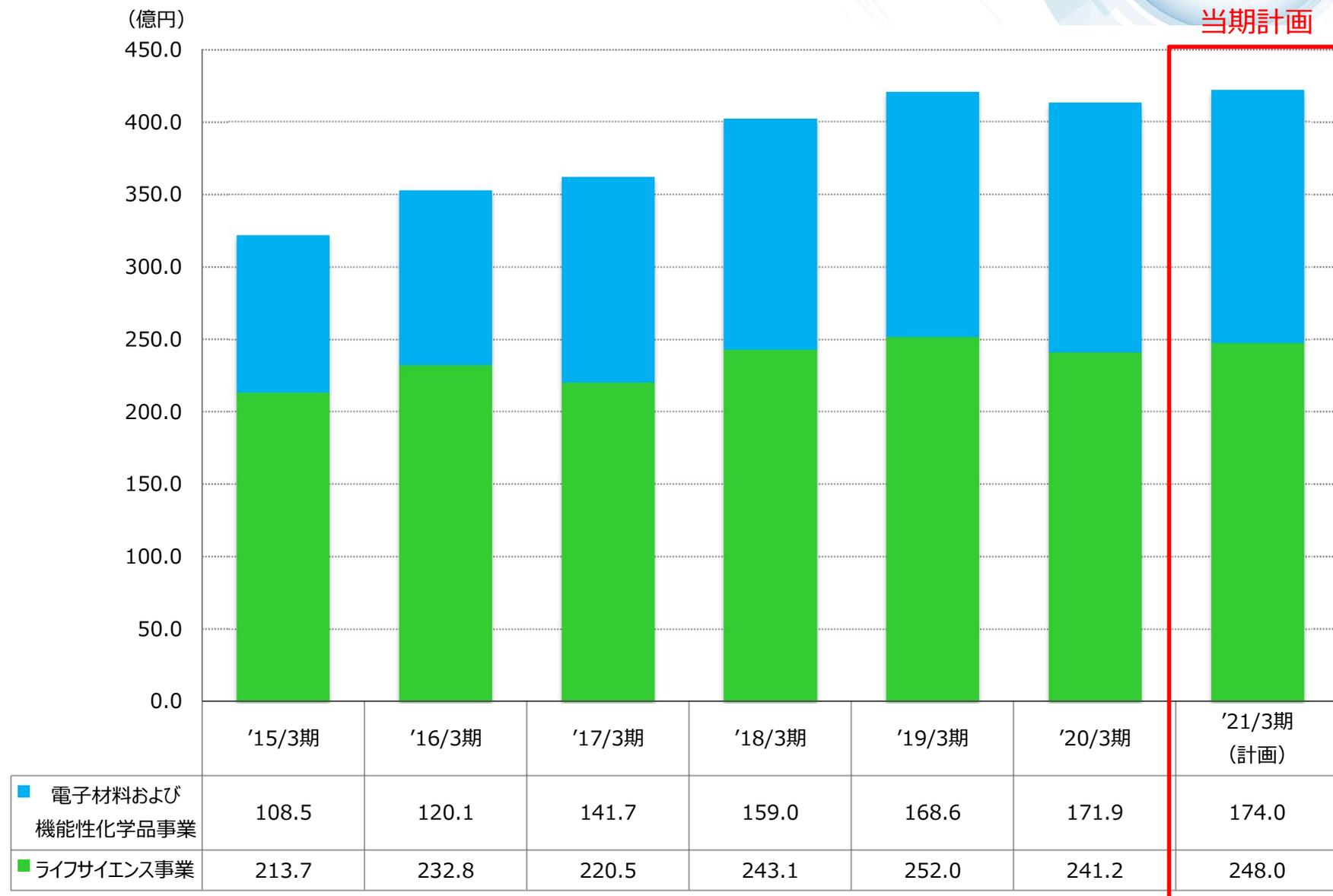
(単位：億円)



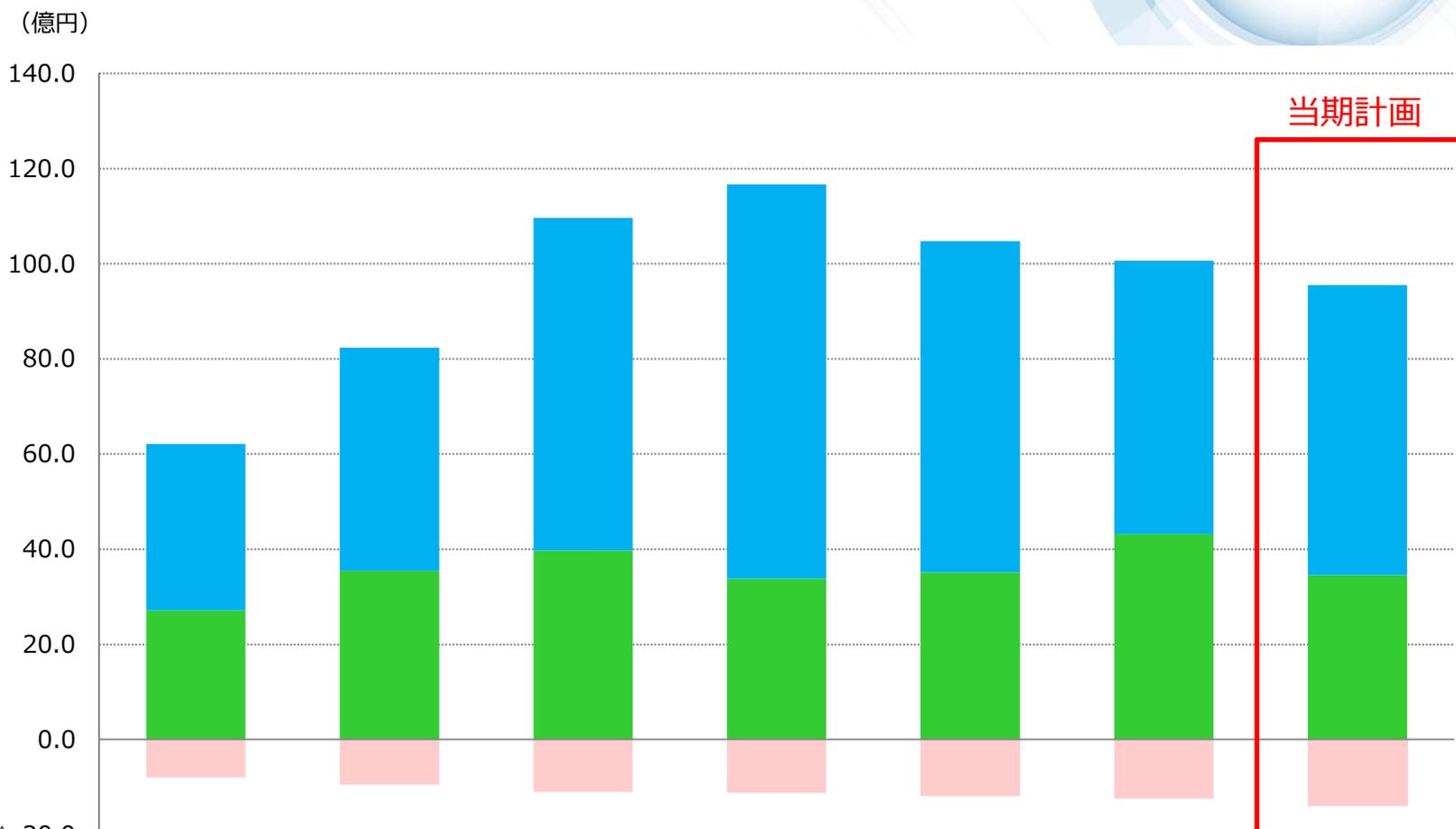
セグメント別売上高推移



当期計画

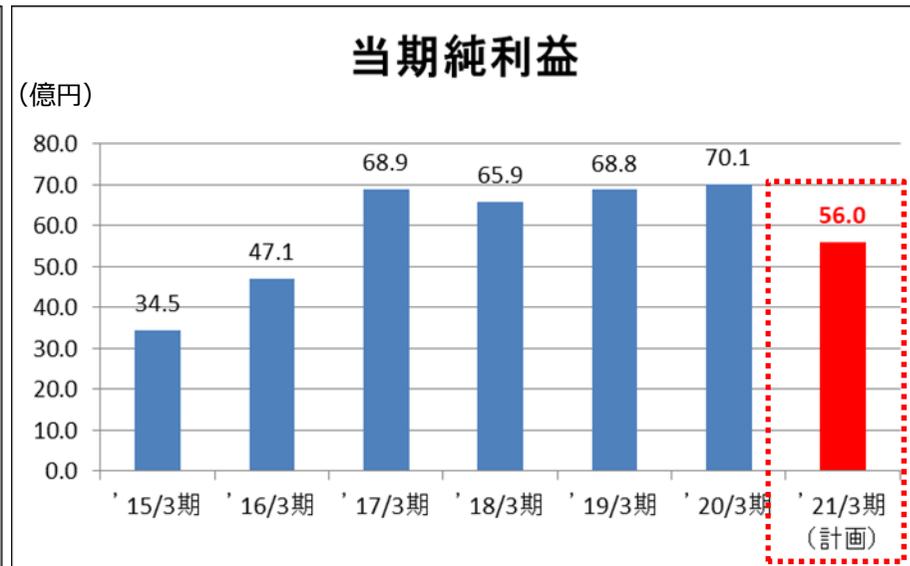
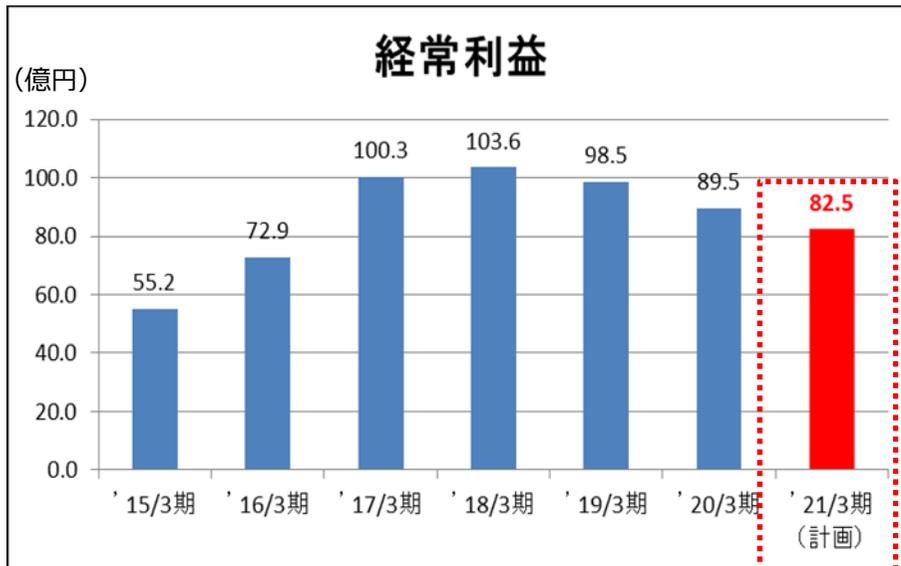
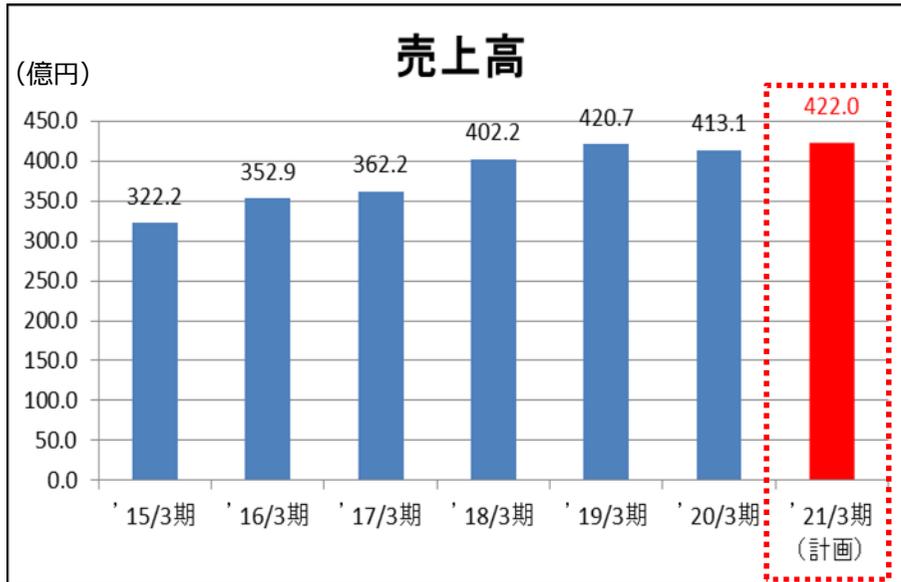


セグメント別営業利益推移



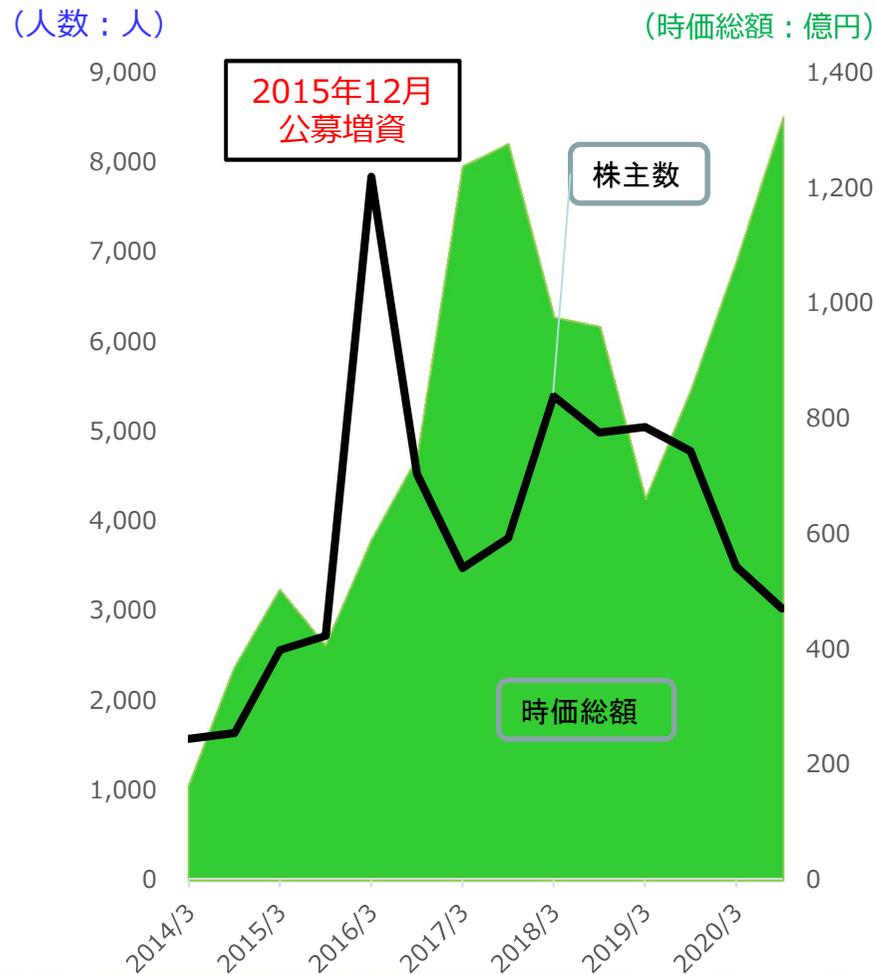
	'15/3期	'16/3期	'17/3期	'18/3期	'19/3期	'20/3期	'21/3期 (計画)
■ 電子材料および 機能性化学品事業	35.0	46.9	69.9	82.8	69.6	57.4	61.0
■ ライフサイエンス事業	27.1	35.4	39.7	33.8	35.1	43.2	34.5
■ (調整額)	△ 8.0	△ 9.5	△ 11.0	△ 11.2	△ 11.9	△ 12.4	△ 14.0

業績推移および計画

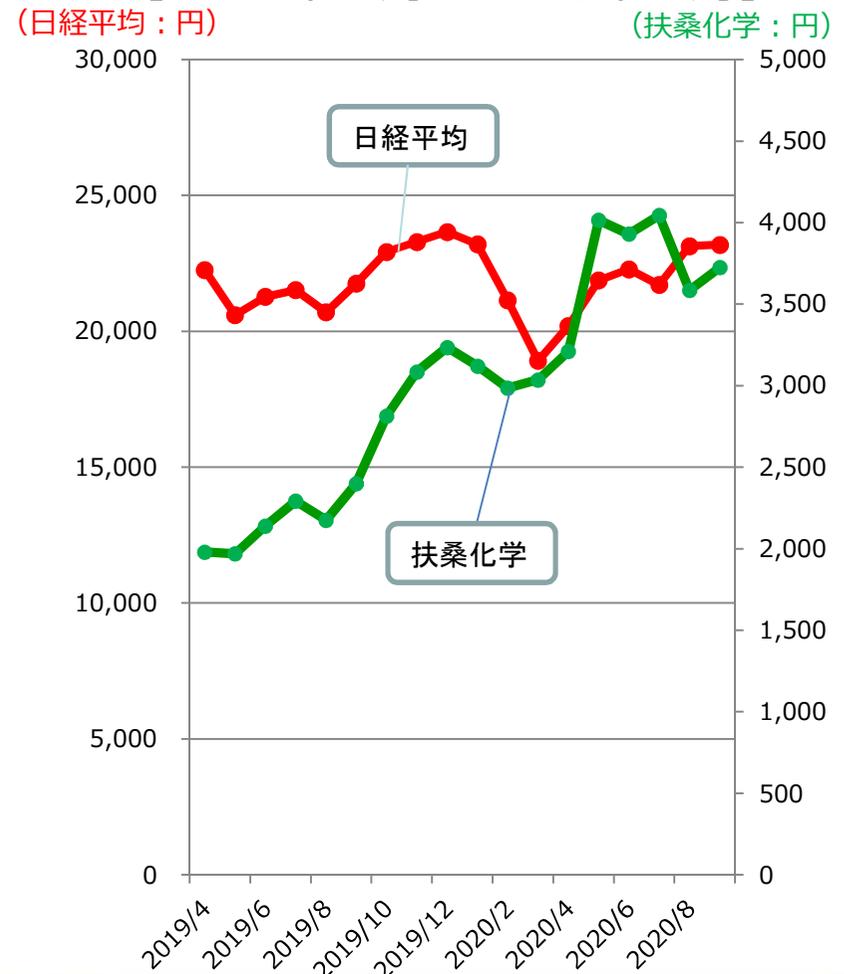


I. 株価推移

【時価総額・株主数】

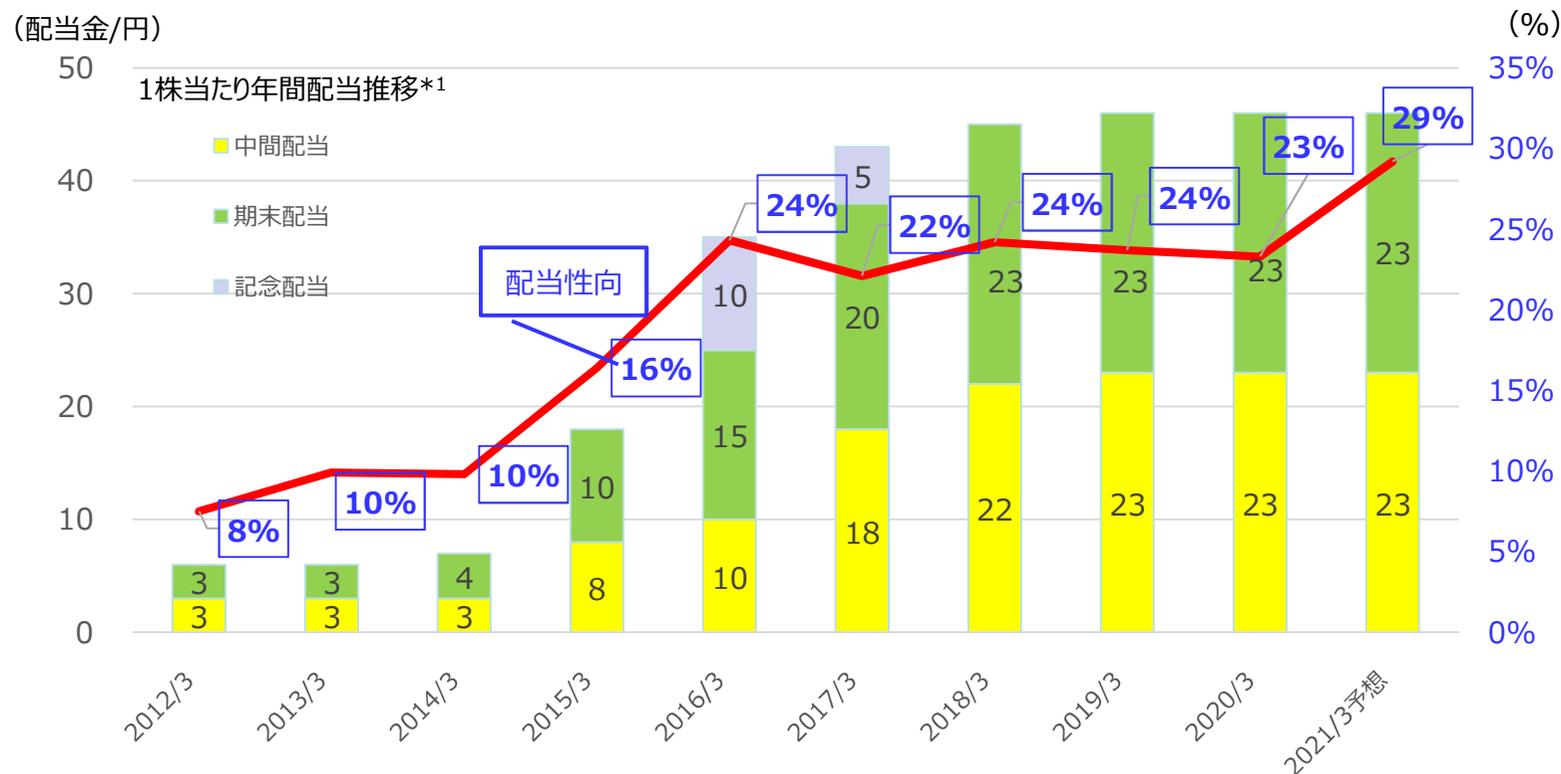


【2019年4月～2020年9月】



Ⅱ. 配当金

- 2021年3月期中間配当:23円
- 2021年3月期年間配当:2020年3月期と同額予定
- 配当性向、配当利回りを考慮しつつ、安定的かつ継続的な配当実施



*1: 2014年10月1日付株式分割 (1:5) に伴い、調整

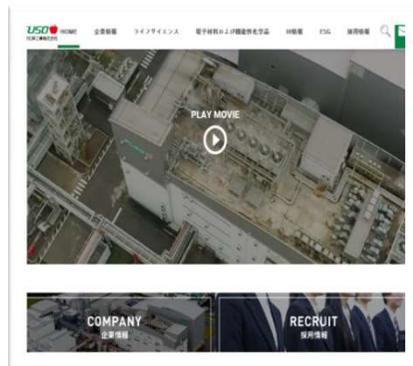
【企業版ふるさと納税】



【「ホワイト物流」推進運動】

取組項目	取組内容
パレット等の活用	パレット等を活用し、荷役時間を削減します。
高速道路の利用	物流事業者から、高速道路の利用と料金負担の相談があった場合は、真摯に協議に応じます。
運送契約の書面化の推進	運送契約の書面化を推進します。
契約の相手側を選定する際の法令遵守状況の考慮	契約する物流事業者を選定する際には、関連法令の遵守を考慮します。
異常気象時等の運行の中止・中断等	台風、豪雨、豪雪等の異常気象が発生した際やその発生が見込まれる際には、無理な運送依頼を行いません。また、運転者の安全を確保するため、運行の中止・中断等が必要と物流事業者が判断した場合は、その判断を尊重します。

【会社紹介動画】



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 【SDGs】



IV. Q & A

Q1. 果実酸事業の海外ビジネス拡大

果実酸事業のアジアや世界市場での売り上げ拡大について、具体的な戦略をお聞かせいただきたい。

まずアジア地区ですが、食品市場全体が5～7%伸びると想定されております。これまでに築いてまいりました強固な販売網とブランド力を活かし、アジア地区での販売拡大をまず目指します。

また、欧州におきましては過去に販売実績もあり、すでに各国の販売代理店を通じて積極的に拡販を進めており、少しずつですが成果が出てきております。

その他、北米・南米は子会社PMP社の販売網を通じて、積極的に拡販を進めて参ります。

Q2. 新リンゴ酸工場の稼働状況

鹿島事業所のリンゴ酸新工場の稼働状況と、今後の投資計画についてお聞かせいただきたい。

設備自体は昨年度末に完成し、今年度上期には3回の連続生産を行いました。下期にはさらに連続運転を実施し設備能力を確認の上、今年度中にはフル生産となる見込みです。今後の投資ですが、現在、リンゴ酸設備の製造立上げ、安定生産を第一優先としており、現時点では鹿島事業所での次期投資計画はございません。

Q3. 電材事業部門のR&D比率推移

微細化が進み顧客からの要求も増える中で、従来は低かった研究開発費比率は今後どこまで上昇するのか、お聞きしたい。

電子材料事業部の2017年度から2019年度の、研究開発投資は平均すると年2.7%です。半導体の微細化に伴い、超高純度コロイダルシリカに対するお客様からの品質要求は益々厳しくなっており、これに対応するため、また新製品開発のため研究開発費自体は増加しております。ただし、売上自体も伸びていくことから比率が大きく変化する事はありません。また、研究開発比率を何%にする等の数値目標は定めておりません。一方、半導体向け以外の新製品開発にも力を入れており、これらを達成するために研究開発に積極的に経営資源を投下していきます。

Q4. 超高純度コロイダルシリカの稼働状況と設備投資計画

京都工場の足元の稼働率と、それを踏まえて次に大きな設備投資が必要となるのは何年後ぐらいを想定しているのかお聞かせいただきたい。

現在、工場全体での稼働率は8割を超えております。当然次期設備を検討すべきタイミングではあります。次期設備投資につきましては、半導体の市場動向を慎重に見極めながら、検討を進めており、需要増への対応が遅れる事がないよう的確に判断をしております。

本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。